



FUJI SASH SUSTAINABILITY REPORT 2024-2025

不二サッシ サステナビリティレポート

A photograph showing a hand in a dark blue sleeve holding a silver window sash handle. The background is a bright green field with a large, semi-transparent globe of the Earth overlaid on it. The globe shows the continents and is set against a backdrop of green foliage.

窓の、向こうへ

その先の景色に、私達は未来を見えています。

経営理念

基本姿勢

不二サッシは窓から夢をひろげていきます

行動規範

私たちはお客様との絆を大切にします
 私たちは心をこめた商品を世に出します
 私たちは活力あふれる気風づくりに努めます

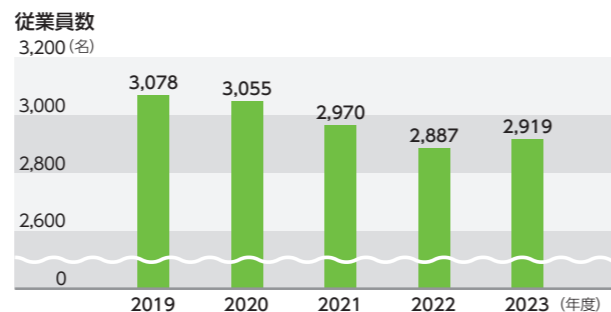
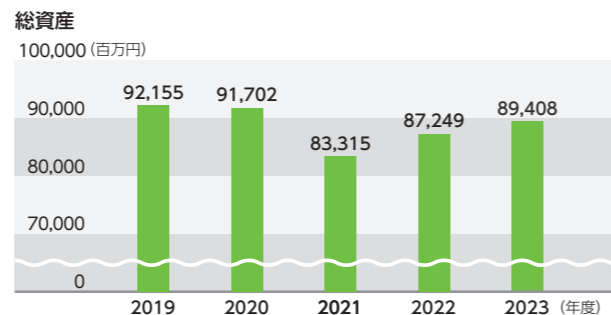
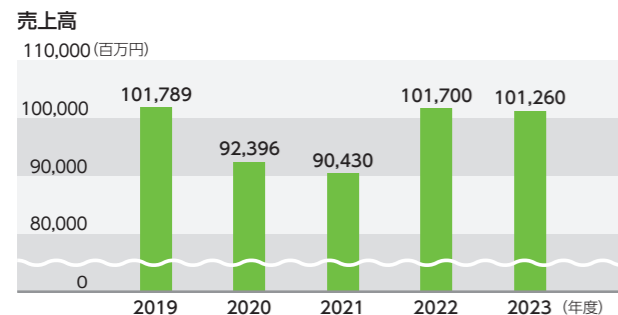
会社概要

商号 不二サッシ株式会社 (FUJI SASH CO.,LTD.)
 本社所在地 神奈川県川崎市幸区鹿島田1丁目1番2号
 創業 1930 (昭和5)年7月7日
 設立 1969 (昭和44)年5月1日
 資本金 1,709,609,300円
 従業員数 892名 (連結 2,919名) (2024年3月31日現在)

不二サッシグループ生産拠点



業績・財務ハイライト



FUJI SASH SUSTAINABILITY REPORT 2024

不二サッシ サステナビリティ レポート

編集方針

本レポートは、サステナブルな社会実現への貢献を目指した不二サッシグループの活動や考え方を、ステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的として発行しています。

2024年度版のポイント

2023年度末に新たに策定した「不二サッシグループ サステナビリティビジョン 2050」およびその策定プロセスを紹介しています。「特集」では不二サッシグループのTCFD開示を行っています。その中で、2024年6月にSBT認定を取得した温室効果ガス排出量削減目標を開示しています。また、不二サッシグループのあゆみとして、事業を通じて社会に提供する価値をどのように高め広げてきたのか整理しています。

Webマークの項目は当社ホームページ上で詳細情報をご覧いただけます。

●参考にしたガイドラインおよびガイダンス

- ・環境省:環境報告ガイドライン2018年度版
- ・GRIスタンダード
- ・ISO26000:社会的責任に関する手引き
- ・国際統合報告フレームワーク

●対象範囲

不二サッシ(株)および関連会社。特定の範囲を示す場合は本文にその旨を表記しています。

●対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日 ※一部対象期間以外の情報も含まれます。

目次

経営理念/会社概要/業績・財務ハイライト	2
編集方針/目次	3
トップメッセージ	4
価値創造ストーリー	
価値創造プロセス	8
中期経営計画(2022-2024年度)	10
価値創造のあゆみ	12
不二サッシグループの製品・サービス	14
特集:気候変動対応	18
サステナビリティマネジメント	20
価値創造の基盤	
Governance ガバナンス	
コーポレートガバナンス	24
Social 社会	
お客様とともに	
製品品質・安全への取り組み	26
2023年度活動実績	26

社会とともに

不二サッシグループ各社の活動	27
従業員とともに	
人権の尊重	28
人的資本の育成	29
労働安全衛生	30
ワークライフバランス	31

Environment | 環境

脱炭素社会の実現への取り組み	33
環境負荷低減に向けた取り組み状況	33

Communication

ステークホルダーとのコミュニケーション	36
第三者意見	37



「脱炭素」と「人的資本経営」を
両輪にお客様にも社会にも
必要とされる企業へ

代表取締役社長

江崎 裕之

■ 環境配慮型製品の開発に一段と注力

気候変動の抑制は、今やすべての人々にとって避けることのできない喫緊の課題です。社会全体が足並みをそろえてカーボンニュートラルの実現に向かう中、当社グループの事業領域においても、特に省エネ効果や防災性能に優れた製品や、製造過程におけるCO₂排出量を削減した製品が注目されるようになり、2024年3月期(2023年4月1日-2024年3月31日)は環境配慮型製品の開発に大きく注力した1年となりました。

また、住宅省エネの推進団体である「住宅開口部グリーン化推進協議会(AGW)」設立に伴い、不二サッシとして参画したことも、新たな一歩です。私たちがこれまで向き

合ってきた“窓の断熱性能向上”という課題の重要性を、国もはっきりと認識し、官民一体で取り組む機運が醸成されつつあるという手応えを感じています。この流れを追い風として、当社グループでも製品のさらなる性能向上に引き続き取り組んでまいります。

■ 「サステナビリティビジョン 2050」を策定

当社グループは2022-2024年の中期経営計画において、『サステナブルな社会実現への貢献「選ばれる企業グループへ」』というメインメッセージを掲げています。さらに、カーボンニュートラル実現のゴールである2050年に向けて、当社グループの社員が進むべき道筋を明確に示す



不二サッシグループ サステナビリティビジョン 2050

『不二サッシは 窓から夢をひろげていきます』の経営理念のもと、『サステナブルな社会実現への貢献・選ばれる企業グループ』を目指します。

E 環境 Environment

- 2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指します
- 暮らしを支える生態系の保全と回復を目指します
- 資源循環の促進を追求します

S 社会 Social

- 社会の期待に応える商品・製品づくりを追求します
- 人権を尊重した公正な事業活動を実践します
- 地域社会との協働を行います

G ガバナンス Governance

- 全てのステークホルダーに対し、適切な情報開示と責任ある対話を行います



脱炭素

基準年：2021年	Scope1	Scope2	Scope3
2030年度目標	42%削減	42%削減	30%削減
2050年度目標	ネットゼロ達成		

人的資本

	目標	2023年度実績
採用者に占める女性割合	30%	28.2%



アルビームプラス フォルティナ®

ため、2024年3月に「サステナビリティビジョン 2050」を策定・発表しました。「環境(E)」「社会(S)」「ガバナンス(G)」の各領域において取り組むべきことを、より長期的なテーマとして打ち出しています(▶P.21)。

これらのESG分野の中でも、とりわけ「脱炭素」と「人的資本経営」の2点を、経営上の最重要テーマとして認識しています。この2つは、言わば「車の両輪」のようなものであり、共に進めていくことで相乗効果が生まれ、事業活動に大きく資すると確信しています。

■ 脱炭素に貢献し、
今後も「選ばれる企業グループ」に

脱炭素の推進においては、SBT (Science Based Targets) の目標水準に基づき、当社グループとして2030年度までの「短期目標」、2050年度までの「長期目標」、さらに2050年度までの「ネットゼロ目標」の3つの時間軸で、温室効果ガス排出量削減の目標を掲げました(▶P.19, 33)。この削減目標について、2024年6月にSBTの短期目標およびネットゼロ目標の認定を取得しています。今後も引き続き「省エネ」「創エネ」「設備省エネ」を3本柱として、排出量削減に取り組んでまいります。

中でも特に課題感を持って推進しているのが「設備省エネ」です。取り組みの一つとして、生産機械・設備の選定にあたっては、従来は生産部門や企画部門の社員が検討・決定していましたが、ここに「サステナビリティ委員会」の社

員が設備投資計画の段階より参加しています。扱いやすさや生産効率に加えて「脱炭素」の観点も交えることで、「設備省エネ」を推進しています。

また「省エネ」「創エネ」においても、環境配慮の面で新たな付加価値を有する新製品を、他業界の企業と共に開発、販売しました。一例として、デザイン性と安全性にも配慮したカーテンウォール用ルーバー「アルビームプラス フォルティナ®」(TOPPAN(株)と共同開発)、太陽光発電システムを組み込んだことにより、外壁・窓で発電する外装システム「T-Green® Multi Solar」(大成建設(株)、(株)カネカと協業)などがあります。

今日の企業活動には、脱炭素への貢献が求められています。貢献している企業だと認められれば、それは当社グループのブランド価値を向上させ、お客様や社会から「選ばれる企業グループ」への一歩となるでしょう。一方で貢献が不十分だと見られれば、ブランドの毀損を招き、「選ばれない企業」になりかねません。脱炭素の取り組みにおいて、企業価値の向上と毀損は、常に表裏一体の関係にあると言えます。

■ 人的資本経営の拡充

当社グループが今後さらなる発展をし事業を持続させ、その中で脱炭素に向けた取り組みを続けていく上で、核となるのが人材です。

年齢や性別にかかわらず、様々な個性を有する従業員が

個々の適性や能力に応じて存分に活躍できるのが、企業として望ましい姿でしょう。しかし当社グループにおいて、バブル経済崩壊後のいわゆる「失われた30年」と称される期間は縮小均衡の施策に偏りがちでした。その結果として、今なお人員構成のバランスを欠き、人的資本の多様性・多彩性・継続性が薄れてしまっている面があることは否めません。現状を踏まえ、過去への反省に立った上で、多様で多彩な人材が活躍でき、個人が身につけた業務上の知見やノウハウを次世代へ継承していける企業風土の再確立に取り組んでいます。

人材の「多様性」については、特に女性社員の活躍拡大を重視し、引き続き取り組んでまいります。採用者に占める女性比率の数値目標を30%以上と設定し、有価証券報告書に公表しているほか、女性管理職の比率も現在の5%前後から10%以上に拡大することを目標として設定しました。採用者に占める比率、専門職種に占める比率、さらに女性管理職比率のいずれも、社内での意識浸透などが功を奏し、年々高まりつつあります。

また、年齢・性別にかかわらず、事業環境の変化に柔軟に対応できる人材を増やす「多能工化(マルチタレント化)」にも、継続して取り組んでいます。特定の分野に長けていて、かつ複数の分野を高いレベルでこなすことができる「多能工」と呼ぶべき人材は、技術開発の面のみならず、サステナビリティの観点からも、今後ますます必要な存在となるでしょう。

女性活躍の推進も、多能工化も、どちらも社内の理解を得られてこそ実現できるものと言えます。以前と比べれば、かなり社内の意識が変わってきたことを実感していますが、それでもまだ十分とは言えません。脱炭素と同様に、人材面の取り組みも喫緊の課題で、時が解決してくれるのを座して待っている余裕はありません。これまで以上に、経営陣も含めた一人ひとりの意識変革を促して、内側からの自己変革を成し遂げてまいります。

■ 将来を見据えた人的資本への投資

2023年より、当社グループの各社から参集した30～40代の社員で構成される、新たな戦略立案のためのプロジェクトチームを立ち上げました。最初の1年間はグループディスカッションにより、社内他部門やグループ内の各社が何をしているのか、相互の理解を促進。本年度は、当社グループの現状を分析した上で、「2030年にあるべき姿」を議論してもらっています。さらに、次期中期経営計画(2025-2027年)の策定に、このプロジェクトチームにも参画してもらう予定です。言わば、当社グループにおける人的資本への先行投資であるとも言え

ます。

事業活動を方向づける経営計画は、一般的には経営陣や経営企画に携わる部門から発信される「トップダウン」で策定されるのが一般的でしょう。しかし私には、いつまでもトップダウンに頼ってばかりでは、人材がなかなか育成できないのではないかという危機感がありました。組織が変わっていくためには、トップダウンだけではなく「ボトムアップ」も欠かせません。現場からの視点や発想が会社を良い方向に動かすだけでなく、自らがボトムアップの発信源となることで個の成長も促されるでしょう。中期経営計画の策定に関わることで、グループ全体を広く俯瞰できる視点を持った人材が各社に育ち、相互に連携しながら成長を続ける未来像を描いています。

■ 地域社会との協働

今日の企業には、地域と協働しながら社会課題に向き合うことが求められています。当社グループでも、これまで様々な案件に取り組んできました。

その一つが、山口県美祢市「社会復帰促進センター」における受刑者の社会復帰支援事業への参画です(2016年～継続中)。不二サッシ社員の設計技術者を講師として施設に派遣し、受刑者がCAD製図の技能を身につけるサポートをしています。CAD製図は自宅でも就労が容易なことから、施設を出た後の自立支援に適しているとして大きな期待をお寄せいただいているプロジェクトです。

地域社会との協働に正解はなく、中には実現が難しい事例もありますが、今後も当社グループの“身の丈にあった”社会貢献活動に取り組んでまいります。

■ 事業継続のためのリスクヘッジ

事業活動は、常に様々なリスクと隣り合わせです。当社グループにおいても、2024年時点で海外の紛争や為替変動などを受けた輸入資材の価格高騰、トラックドライバー不足による工期の変更など、国内外における様々な事象がリスクとして各社の事業活動に影響を及ぼしています。また、自然災害によるリスクも無視できません。2024年の年頭に発生した能登半島地震では、幸い人的被害は免れましたが、日海不二サッシの生産設備が被害を受けました。被災されたお取引先もあり、地震による影響は決して小さくありません。こうした多面的なリスクに対応すべく、調達先や物流手段の効率化・複数化などを、今後も引き続き推進してまいります。

サステナブルな社会実現への貢献 「選ばれる企業グループへ」



■ 「全体最適」の思考で 価値を創造し続ける企業へ

当社グループの経営にあたる上で、はっきりと意識し、グループ社員に呼び掛けていることがあります。それは、「自分最適」「部分最適」の考え方から脱却し、「全体最適」を目指していこうということです。

課題に対して「部分最適」で臨めば、短期・局所的に見れば効率的に対処できるかもしれませんが、全体で見れば逆に無駄を発生させていることも往々にしてあります。一方、初めから「全体最適」で臨めば、その場では遠回りのように思えても、長い目で見れば結果としてプラスに転じるでしょう。常時とは言わずとも、一人ひとりが心の隅に「全体最適」の視点・考え方を持つことで、グループ全体が変わっていくと信じています。

もう一つ呼び掛けているのは、「クイックレスポンス」の大切さです。いわゆる「PDCA」のうち、「P」で立ち止まってしまったら、いつまでも「D」にすら進むことができません。「よく考えて立てられた計画ならば、失敗を恐れず、一度行動に移してみよう」と言っています。

「今の自分が他人より劣っているのは恥ではない。昨日の自分より今日の自分・来年の自分が勝っていないのは恥である」——イギリスの銀行家であり政治家であるジョン・ラボックの名言です。これは個人だけでなく、組織にも言えることだと思っています。全社員が、常に思考を回転させ、改革・改善・前進を重ねる人であってほしい、その集合体としての当社グループであり続けたいものです。来たる2030年には創業100周年を迎えますが、その次の100年もお客様や社会の皆様と共に価値を創造できる企業であるべく邁進してまいります。

価値創造プロセス

創業以来90年を超える歴史の中で培ってきた「技術力」と「提案力」、そしてグループ間連携を活かしたサッシの一貫生産による確かな「品質」を基盤として、社会の夢を広げる価値創造プロセスの推進に取り組んでいます。持続可能な社会の実現への貢献を通じて企業価値を高め続け、持続可能な成長を目指します。



社会課題

INPUT

事業活動

OUTPUT 提供する製品・サービス

OUTCOME

- 気候変動、自然災害
- 資源 (原材料、水、食糧など)・エネルギーの不足
- サーキュラーエコノミー (循環経済)の必要性
- 炭素価格などの規制
- 人権デューデリジェンスの必要性
- 日本の人口減少・労働力不足
- 建物・インフラの老朽化

人的資本

- 従業員数 **2,919**人
- 資格者数 **336**人(延べ)

知的資本

- 研究投資額 **1,309**百万円
- 権利取得数 **773**件

財務資本

- 全体売上高 **1,012**億円
- 自己資本利益率 **8.7**%

製造資本

- 生産拠点 **13**拠点

社会・関係資本

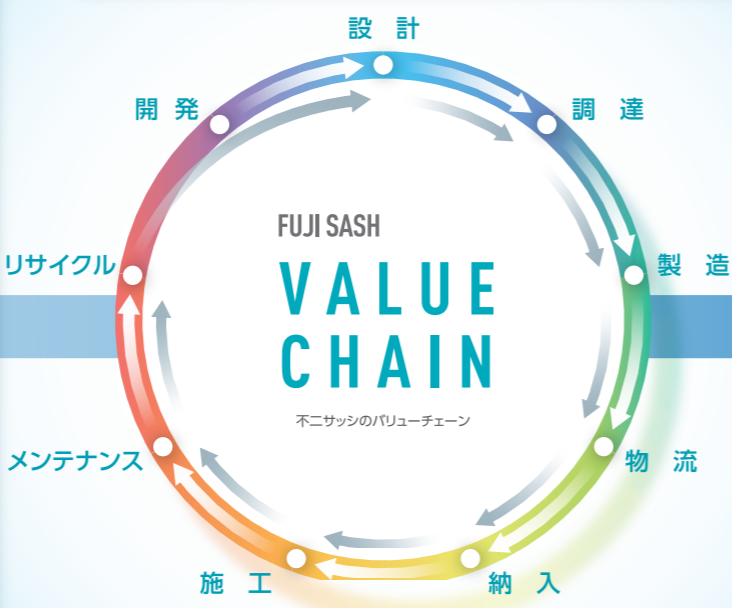
- 特約店数 **70**社
- 工事共済会 **202**社
- 製作協力会 **152**社

自然資本

- エネルギー電力量 **97,459**MWh

不二サッシの強み

- ・アルミサッシ、カーテンウォール のパイオニア
- ・90年以上の歴史の中で培った技術力と提案力
- ・一貫生産による確かな品質、お客様との信頼関係



経営理念

基本姿勢

不二サッシは窓から夢をひろげていきます

行動規範

私たちはお客様との絆を大切にします
私たちは心をこめた商品を世に出します
私たちは活力あふれる気風づくりに努めます

中期経営計画(2022-2024年度)

サステナブルな社会実現への貢献
「選ばれる企業グループへ」

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

E | 環境

- ・脱炭素に向けた取り組み (気候変動への対応)
- ・循環型社会の形成
- ・サプライチェーンマネジメント

S | 社会

- ・人権の尊重および従業員満足度の向上
- ・公正な事業慣行
- ・お客様サポート
- ・コミュニティ参画および発展

G | ガバナンス

- ・企業統治
- ・コンプライアンス
- ・コミュニケーション
- ・成長戦略・事業継続計画 (BCP)

建材事業

- ・ビル建材事業
- ・住宅建材事業
- ・フロントサッシ事業
- ・ユニットハウス・防災関連事業
- ・リニューアル事業
- ・光建材事業
- ・海外事業

形材外販事業

- ・アルミ形材・アルミ加工品事業
- ・マグネシウム合金事業

環境事業

- ・都市ごみ焼却 飛灰処理事業
- ・リサイクル・粗大ごみ処理事業
- ・薬剤事業

物流事業

- ・トラック・トレーラー輸送
- ・国際物流(輸出・輸入業務)
- ・倉庫・保管・流通加工
- ・オフィス移転・引越
- ・大型設備・重量物の運搬・設置・解体

アルミニウム活用拡大

災害への備え

循環型社会

健康・医療

人材活用

まちを支える

循環型社会

エネルギー

気候変動対策

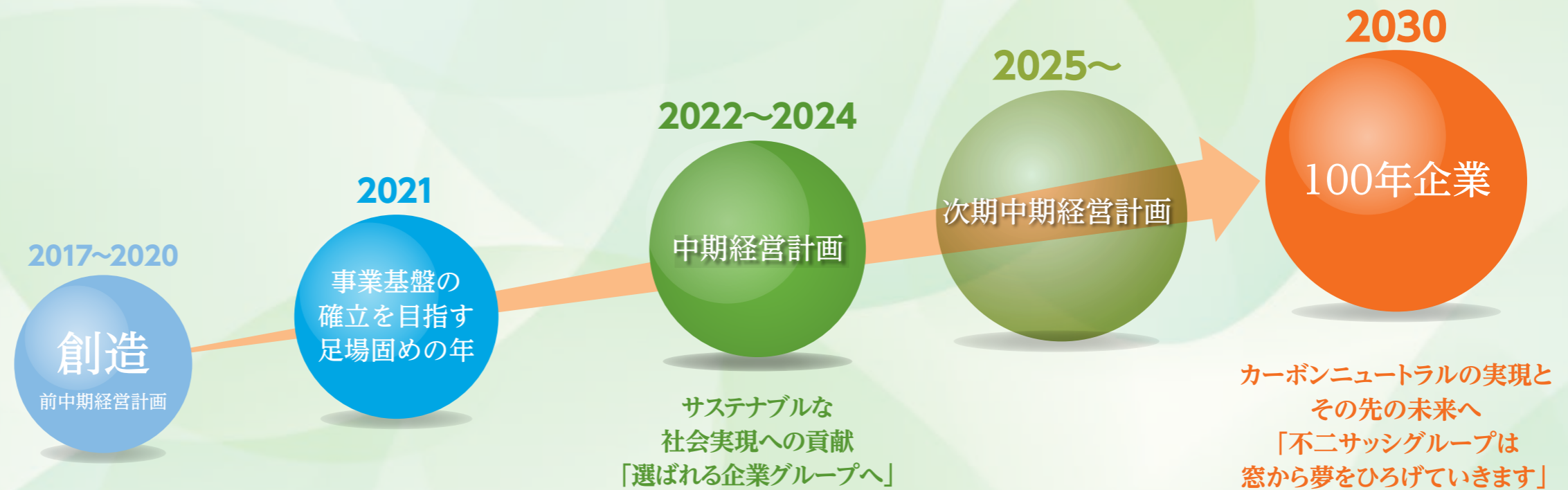
汚染防止

持続可能な社会の実現

さらなる企業価値の向上

中期経営計画(2022-2024年度)

不二サッシグループは2022年度を初年度とする中期経営計画(2022-2024年度)を策定いたしました。「窓から夢をひろげていきます」の経営理念のもと「お客様との絆を大切にします」「心をこめた商品を世に出します」「活力あふれる気風づくりに努めます」を社員の行動規範とし、エンジニアリング企業としてお客様に最適な形での価値の提供に努めてきました。2030年に迎える創業100周年に向け、環境・社会課題を解決するものづくりやプロセス革新を続けることで持続可能な社会の実現に貢献するとともに強靱な事業基盤を確立し、すべてのステークホルダーの皆様から「選ばれる企業グループ」として持続的成長を目指していきます。



基本方針

稼ぐ力の向上

脱炭素経営の実践

スピード感のある改革と成果

基本戦略

変革(DXの加速等)へ挑戦し、生産性向上・営業強化を図る

- ① 生産設備の自動化、ロボット化の推進
- ② 間接部門の生産性向上
- ③ 営業プロセスの再構築による営業強化

事業領域・エリアを拡大し、新規・注力事業を強化する

- ① 環境配慮商品の拡充(樹脂、樹脂複合、自然換気商品等)
- ② リニューアル事業の拡大
- ③ アルミ加工品事業の拡大
- ④ 現地法人を活動拠点に海外事業を強化

ESG・SDGs貢献への取り組み

- ① SBT認定取得、TCFD提言への賛同
- ② ダイバーシティの推進
- ③ アルミリサイクル材を活用した資源循環の実現

循環型ビジネスの拡大に向けて

様々なアプローチで3Rに取り組み、循環型ビジネスを目指していきます。

アルミリサイクル材の活用 (sash to sash)

環境配慮商品の開発

グリーン調達

SBT認定の取得



不二サッシグループが取り組むSDGs

SDGsを経営戦略の重要事項と捉え、社会情勢や事業環境を踏まえて重要課題を設定し、それらの達成により、社会課題の解決と経営戦略の共通価値の創造を目指します。



健康経営
有給休暇取得促進
働きやすい職場環境



キャリア開発のための取り組み
人材育成の強化、拡充



ダイバーシティ推進
働き方改革
女性活躍推進



再生可能エネルギー創出



働きがい・従業員満足度向上
人材育成
「ホワイト物流」推進運動



断熱省エネ関連商品の開発
ガバナンス・コンプライアンス強化



断熱省エネ関連商品の開発
都市防災・インフラのBCP強化への貢献



グリーン調達に向けた部品材質へ切り替え
資源の有効活用およびゼロエミッション推進
製品含有の化学物質削減



SBT認定取得
運搬車のCO₂削減
アルミリサイクル比率増



環境エンジニアリング事業による貢献
資源の有効活用およびゼロエミッション推進



環境エンジニアリング事業による貢献
資源の有効活用およびゼロエミッション推進



ステークホルダーとの協働

価値創造のあゆみ

私たちは1930年の創業以来、サッシの製造事業を通じてビルや住宅における快適な居住環境を追求してきました。特に1958年に国内で初めて製造販売を開始したアルミサッシ分野では、一貫生産のアルミサッシ、カーテンウォールのパイオニアとして国内外のビッグプロジェクトに参画し、都市景観の創造に寄与してきました。

90年以上の歴史の中で培った技術力と提案力は、不二サッシの価値創造プロセスの基盤を成すものです。そして現在は、2030年に迎える創業100周年を見据えた事業基盤の確立を目指した足場固めを行うとともに、持続可能な社会の実現に貢献し、ステークホルダーの皆様から選ばれる「企業グループ」を目指してさらなる変革へ挑戦しています。

1957~

アルミサッシ、カーテンウォールのパイオニア

- 1957 米国フェントロン社と技術提携しアルミサッシの技術を日本に導入
- 1958 日本で初めてビル用アルミサッシの製造・販売を開始
- 1961 日本で初めて住宅用アルミサッシを発売
- 1964 日本初の超高層建築「ホテルニューオータニ」竣工
当社のカーテンウォール工法が採用される



ホテルニューオータニ

当社のアルミサッシは、当時の住宅・公営団地で主に使われていた木製サッシやスチールサッシに比べて軽量性や気密性といった点で優れており、隙間風が少なく居住環境の快適さを高める立役者となりました。また当社のカーテンウォールは、簡易な工法と軽量性によって多くの高層建築に採用されてきました。このように長年お客様の信頼をいただいている背景には、製造から施工までの一貫生産体制が実現する製品・サービスの確かな品質があります。

2000s

社会環境課題の解決力強化

- 1997 千葉カーテンウォール試験センター稼働
- 2004 次世代型
バリアフリーサッシ
「フラットステージ」発売
- 2007 自然風力換気窓「ウインプレス」開発
- 2009 防災備蓄倉庫・災害救助倉庫
「Stock&Toilet」発売



カーテンウォール試験センター

ISO9001・14001を取得しマネジメントを強化するとともに、実物大の製品で耐災害試験を行えるカーテンウォール試験センターの設立や、社会環境および暮らしの困りごとへの対策という点でも製品の付加価値を高めてきました。

2000~

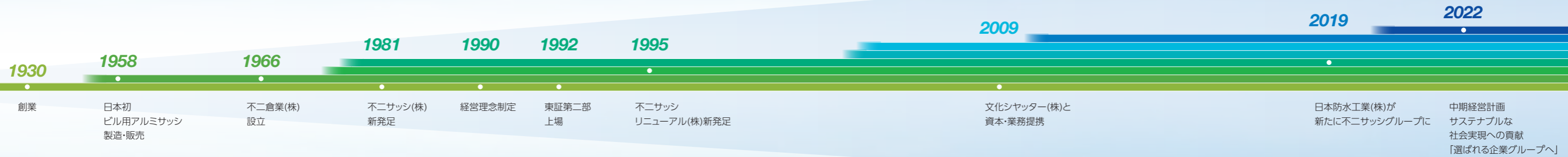
マグネシウム合金の医療機器への活用に挑戦

- 2002 マグネシウム合金に関する研究を開始
- 2015 マグネシウム合金を使った医療機器開発を始動
- 2017 長洲町と立地協定を締結し研究棟を設立
- 2018 包括連携協定を結んだ(株)日本医療機器技研が「医療研究開発革新基盤創成事業」に採択



マグネシウム合金製医療機器部材

アルミニウム関連技術を基盤として新素材事業にも挑戦しています。近年ではマグネシウムが人の体内で安定的に分解・吸収される性能を利用した医療機器の開発・製品化に取り組んでいます。



1972~

リニューアルを通じて暮らしを豊かに

- 1972 取替サッシの製作・施工に着手
- 1995 不二サッシリニューアル(株)新発足
- 2019 日本防水工業(株)が新たに不二サッシグループに

日本の社会課題の1つである建築ストックに対してリニューアル事業も展開しています。大規模改修やリノベーションの領域で強みを伸ばしてきた歴史があり、様々な既存建築物の価値の向上を提供しています。



不二サッシ千葉工場外壁改修工事

1975~

環境エンジニアリングへ技術応用

- 1975 アルミスラッジ(汚泥)を有効利用した汚泥固化剤「アルサイト」開発
- 2021 省エネ型「エコ混練機」発売

アルミ製品製造技術を下水汚泥固化や廃棄物処理に応用し、環境エンジニアリングへ事業が広がりました。その後も、都市ごみ焼却施設における飛灰やごみ処理のシステム設計・施工を含むエンジニアリング全般や、土壌用粉塵防止剤などの提供を続けてきました。



ダイオキシン類低温加熱分解装置

2010~

気候変動対策、省エネ製品の拡充

- 2015 千葉事業所第一発電所(メガソーラー)運用開始
- 2015 LED搭載型カーテンウォールアルビームシステム開発
- 2018 アルミ樹脂複合サッシ「FNS-II 100R」発売

温室効果ガス排出量の報告義務化(2006年)等を背景に、再生可能エネルギーの創出、LEDの活用や断熱性能向上などを通じた省エネ製品の拡充に取り組んできました。

また気候変動だけでなく、地震対策として産官学連携のもと「アルミカーテンウォール内蔵型センサー・アラートシステム」の研究・開発も進めています。



アルミ樹脂複合サッシ「FNS-II100R」

2020s

サステナビリティ経営の推進

- 2022 人権方針策定
- 2023 サステナビリティ委員会設置
- 2024 SBT認定取得

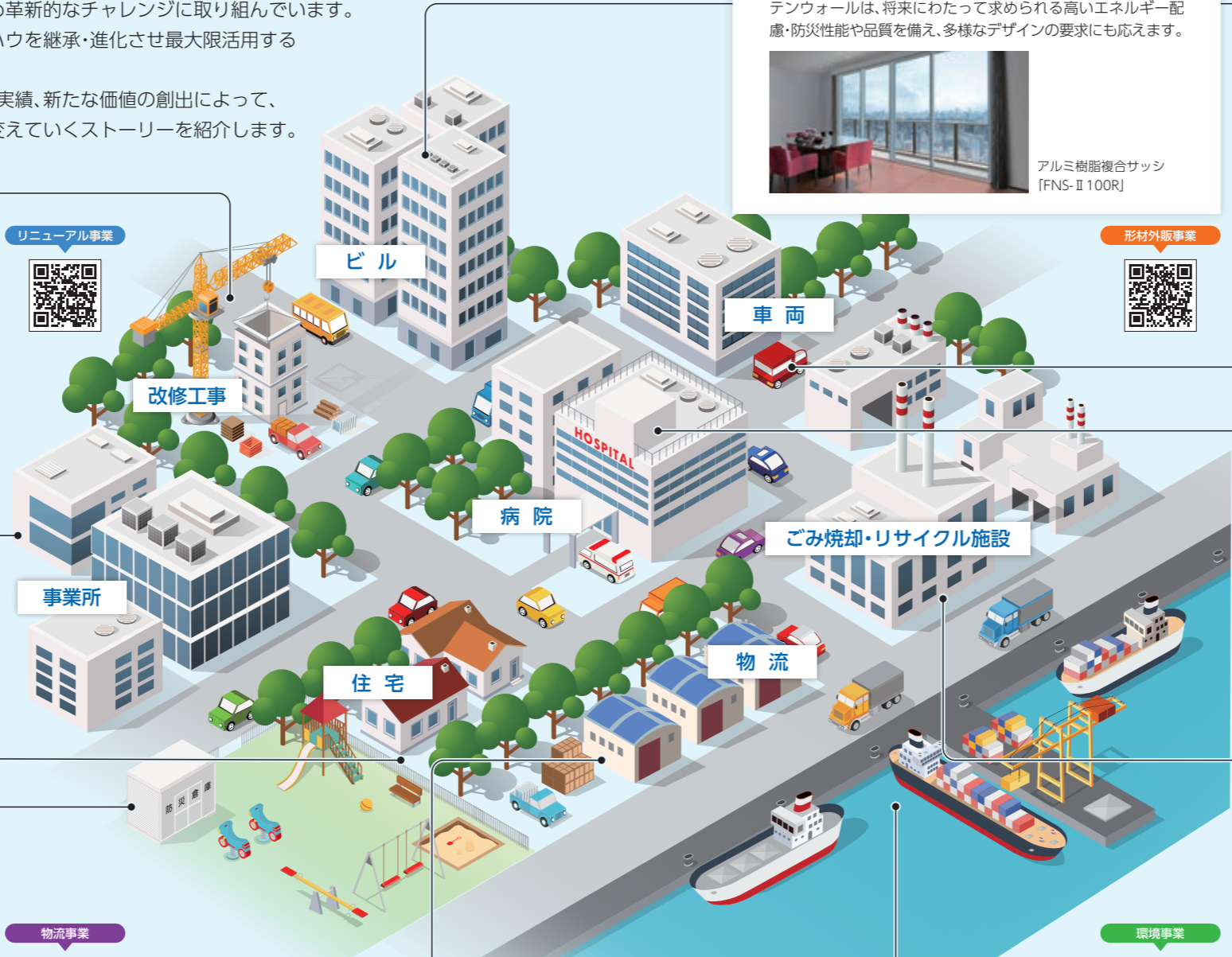
2019年のSDGsへの賛同表明を契機に、経営上重要な要素としてサステナビリティを推進しています。特にアルミニウムのリサイクル促進は、気候変動およびサーキュラーエコノミーにも関係する重要なテーマの1つです。



アルミリサイクル

不二サッシグループの製品・サービス ～ゆたかな暮らしをひろげていきます～

私たちは「ものづくり」という原点を大切にしながら、様々なソリューションを提供するメーカーかつエンジニアリング企業として、サステナブルな社会の実現のため革新的なチャレンジに取り組んでいます。それを可能とするのが、長年培った高度なテクノロジーとノウハウを継承・進化させ最大限活用する社員一人ひとりのパフォーマンスです。ここでは、不二サッシブランドが約束する高い品質、ゆるぎない実績、新たな価値の創出によって、お客様の信頼に応え続け、社会をより豊かで持続可能なものに変えていくストーリーを紹介します。



リニューアル事業

まちを支える

ストック化が進むマンションやオフィスビルなど様々な建築物にリノベーション工事を施すことにより、居住空間の快適性や資産価値の向上をお手伝いし社会課題の解決も推進します。

フロントサッシ事業

まちを支える

商業施設、公共施設、マンションなどのフロントエントランスでおお客様の想いを形にします。

Fフロント防水タイプ

住宅建材事業

気候変動対策 エネルギー

住宅建材商品は、気候変動対応・省エネや高齢社会対応のバリアフリー化など、快適性を高めるための多様な機能が求められています。リフォームやリノベーション向けの商品も充実させ、お客様のニーズに応えています。

ウインドウリフォームシリーズ

ユニットハウス・防災関連事業

まちを支える

多目的に使用できるユニットハウスや防災備蓄倉庫などを揃え、まちと暮らしを支えています。

防災備蓄倉庫(フジストッカー)

海外事業

人材活用

フィリピン、ベトナム、台湾など東南アジアを中心に不二サッシブランド商品の展開や国際人材登用など現地企業とのアライアンスを積極的に推進しています。

リニューアル事業

物流事業

倉庫・保管・流通加工

まちを支える

全国の拠点や倉庫を活用した保管、検品、組立、梱包など多様なサービスの提供により、お客様の事業をサポートします。

千葉倉庫

移転・移設

まちを支える

店舗の移転や引越し、プラント設備等の移設に伴う解体～設置までのサービスを提供します。

ビル建材事業

気候変動対策 エネルギー

不二サッシのアルミニウム製品は、気候変動対策および資源循環に資する低炭素な原材料を使用しています。ビル用サッシ・カーテンウォールは、将来にわたって求められる高いエネルギー配慮・防災性能や品質を備え、多様なデザインの要求にも応えます。

アルミ樹脂複合サッシ [FNS-II 100R]

型材外販事業

輸送・輸出入

まちを支える

国内外にまたがる長距離輸送からDoor to Door輸送まで、あらゆる輸送に対応し日々の暮らしを支えています。輸送車両の低炭素化や船舶活用などのモーダルシフトへの対応も進めています。

光建材事業

気候変動対策 エネルギー

アルミ素材と独自開発したLEDモジュールとの融合により、施工の省力化、光を利用したデザイン性向上や動作の付与など、様々な商品の可能性を広げています。

アルビームカーテンウォール

アルミ型材・アルミ加工品事業

気候変動対策 エネルギー 循環型社会

アルミニウムの特性を活かした建材、半導体製造装置や自動車関連部品など多様な商品を提供しています。

仮設機材
足場板・梯子・脚立・建築現場用台車など、大ロットや大型材へも対応。

ヒートシンク
アルミの高い熱伝導性を活かした、電気製品などに用いる冷却パーツ。

マグネシウム合金事業

健康・医療

実用金属中で最も軽量のマグネシウム合金の押出加工技術の研究開発や製品化に取り組み、KU MADAI耐熱マグネシウム合金、生体吸収性マグネシウム合金などを取り扱っています。

マグネシウム合金製医療部材

リサイクル・粗大ごみ処理事業

循環型社会

粗大ごみ、不燃ごみ、廃プラスチック等ごみの種類に合わせた処理システムの設計からエンジニアリング全般まで行っています。

都市ごみ焼却飛灰処理事業

循環型社会 汚染防止

飛灰処理に関するシステム設計からエンジニアリング全般を提供しています。

混練機

薬剤事業

循環型社会 汚染防止

飛灰中の有害重金属の溶出防止剤や、植物由来原料かつ生分解性の土壌用粉塵防止剤などを提供しています。

建材事業 TOPICS①

住まいの断熱化と気候変動対策

2050年カーボンニュートラル(CO₂排出量を実質ゼロにすること)は日本の重要施策であり、その実現に向けたマイルストーンとして2030年における2013年比46%削減目標が掲げられ、家庭部門では全部門の中で最も高い66%削減が設定されています。その中で住宅*1分野においては、日本の既存住宅の大半が現行の省エネ基準を満たしておらず、住宅における低炭素化は喫緊の課題とされています。特に、既存住宅の窓の多くには断熱性の低い単板ガラスが装着されており、開口部交換*2などの窓改修における削減効果は非常に大きいと考えられます。

*1:住宅=戸建て・マンションを含む
*2:開口部交換=内窓設置・外窓交換カバー工法・ガラス交換・玄関ドア交換・勝手口ドア交換など

一般社団法人住宅開口部グリーン化推進協議会への参画について

既存住宅における窓改修を推進するために、一般社団法人住宅開口部グリーン化推進協議会が2022年に発足され、不二サッシも設立時から参画しています。本協議会は、住宅分野の低炭素化、特に開口部の省エネルギー等々のグリーン化に資する効果的な対策を進めるために、住宅グリーン化に関して、開口部を中心に調査・研究・政策提言、政策実現のための活動を推進しています。また、2023年には、流通委員会を立ち上げ、業界リテラシー向上の活動も行っています。2024年度には、3省(国土交通省・経済産業省・環境省)の連携による大型補助金(先進的リノベ1350億円・子育てエコホーム支援事業2100億円)も始まっています。

室内
あたたかい空気を逃がしにくい



樹脂内窓「インプラードⅡ」発売

当社では新築・既存住宅の断熱性を高めるための商品の開発を進めています。その中でも既存の窓を変更することなく簡易に断熱性を高めたいというニーズに応える、樹脂内窓「インプラードⅡ」について紹介します。

「インプラードⅡ」の開口種類には、引違い窓(2枚建・3枚建・4枚建)、FIX窓、内開き窓、框ドアがあります。また、断熱性能に合わせて、ガラスは単板および複層どちらも取り付けすることができます。付属部材には連窓用の方立部材および段窓用の無目部材、そして取付調整用のふかし枠を設定しており、新築、改修どちらにも対応します。なお、取り付けに必要な時間は1窓当たり60分と、施工の省力化にも配慮しています。

内窓を取り付けるメリットとしては、窓の断熱効果が高まることはもちろんですが、冷暖房エネルギーの低減が図れるため電気代の節約もできます。また、窓の結露も抑制されます。結露は放置すると巾木や周辺の木材にカビや雑菌が発生して家や人体にも影響を与えかねません。さらに、窓の防音効果も高まるため快適な室内空間を実現することができます。我が家の窓も断熱性を高めたいと思われましたら、是非不二サッシの「インプラードⅡ」をお使いください。



建材事業 TOPICS②

『アルビームプラス フォルティナ®』を新発売

あたらしいファサード提案を実現するカーテンウォール一体型高意匠・高性能ルーバー、アルビームシリーズの新たなラインナップ『アルビームプラス フォルティナ®』を発売しました。

従来ルーバーは目隠し、遮光、通風機能として使われますが、意匠材としてのニーズも高まっています。

主力カーテンウォール[SR-GARELIA]に、TOPPAN(株)の化粧シートラッピングを施した高意匠・高性能ルーバー:フォルティナ®を加えた、新しいファサードシステムです。

近年の気象条件の変化を踏まえ、接合性を向上させたルーバー断面・構造に、TOPPAN(株)フォルティナ®の豊富な柄のシートラッピングを加え、さらに夜間にはルーバーシステム部材に設置した照明からライトアップするなど、昼夜ともに高い意匠性を備えたファサードデザインが実現できます。



物流事業 TOPICS③

熊本県玉名郡に営業倉庫を開設

海上コンテナのバンニング、デバンニング作業や重量物・長尺物の保管が可能な倉庫です。千葉県市原市の倉庫と併せ保管から輸送までワンストップの物流をご提供します。

屋根にはソーラーパネルを設置し、エネルギーコストやCO₂排出量削減を図ります。



物流事業 TOPICS④

トラック荷台昇降用ステップ「グラディーノ」を発売

不二倉業では2023年10月からの貨物自動車の労働安全衛生規則改正に併せて開発した、トラック専用の着脱式荷台昇降機「グラディーノ」の販売を行っています。アオリのラッシングレールを用いて簡単に取り付けが可能で、アオリを立てるだけで自動で収納できる商品となっています。





当社の気候変動への対応

不二サッシグループは2022年度を初年度とする中期経営計画(2022-2024年度)を策定しました。「窓から夢をひろげていきます」の経営理念のもと「お客様との絆を大切にします」「心をこめた商品を世に出します」「活力あふれる気風づくりに努めます」を社員の行動規範とし、エンジニアリング企業としてお客様に最適な形での価値の提供に努めてきました。2030年に迎える創業100周年に向け、環境・社会課題を解決するものづくりやプロセス革新を続けることで持続可能な社会の実現に貢献するとともに強靱な事業基盤を確立し、すべてのステークホルダーの

ガバナンス

不二サッシグループは、2022年度を初年度とする中期経営計画『サステナブルな社会実現への貢献「選ばれる企業グループへ」』を定め、環境負荷を軽減するものづくりとプロセス革新を推進しています。

2023年5月には、サステナビリティの取り組みを効率的に進めるための専門組織であるサステナビリティ推進室を立ち上げ、2023年10月にはサステナビリティ委員会を立ち上げました。

この委員会は四半期に一度開催され、代表取締役社長が委員長を務め、代表取締役専務・経営会議メンバー、および不二ライトメタル社長で構成され、サステナビリティの基本方針の策定およびサステナビリティ推進活動における計画、短期・中期・長期の目標策定、取り組みの推進・モニタリングを実施しています。当委員会で議論された内容は、サステナビリティ委員会委員長から取締役会へ四半期に一度の頻度で報告しています。

リスク管理

気候関連リスクを特定・評価するプロセス

気候関連のリスクの特定は、サステナビリティ推進室およびサステナビリティ推進部会によって実施されます。特定されたリスクは、サステナビリティ委員会で審議と定量化の評価と対応策の実施難易度に応じて優先順位の評価がつけられ、対応に向けた戦略方針の策定を行うことでリスクを管理しています。

気候関連リスクを管理するプロセス

サステナビリティ委員会にて策定した対応策は四半期に一度取締役会に報告・監督され、各事業部に展開されま

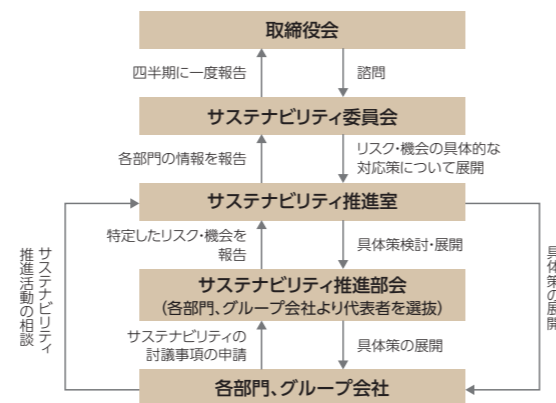
皆様から「選ばれる企業グループ」として持続的な成長を目指していきます。

当社グループは経営理念のもと、100年企業に向けてすべてのステークホルダーの皆様から「選ばれる企業グループ」として存在感を発揮するために、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでおり、サステナビリティを経営上の最優先課題と認識しています。

この取り組みの一環としてTCFDフレームワークに沿って、気候変動に関する重要情報を以下の通り開示します。

取締役会は委員会で検討したサステナビリティや気候変動に関する課題について審議、必要に応じて委員会へ諮問を行い、これらの課題の決定と取り組み(KPIとしてのGHG排出量の削減など)をサステナビリティ委員会委員長の責任のもと、モニタリングします。

気候変動対応に関する体制図



す。対応策の内容により、サステナビリティ推進部会で実施方法を議論し、サステナビリティ推進室が経営会議等を通じてさらに詳細な指示を事業部へ行います。

全社のリスク管理への統合プロセス

各事業部およびグループ会社から抽出された気候関連以外の全社的なリスクもサステナビリティ委員会が評価し、取締役会へ報告しています。今後全社的なリスク管理を行う組織の設立は、別途取締役会および経営会議等で検討します。

戦略

分析のプロセス

TCFD提言で示された各リスク・機会の項目を参考に、気候変動問題が当社グループの事業に及ぼすリスク・機会に関して、以下のステップで検討しました。

また、1.5~2℃シナリオと、4℃シナリオの2つのシナリオを用いて、政策や市場動向の移行(移行リスク・機会)に関する分析と、災害などによる物理的変化(物理リスク・機会)に関する分析を実施しました。



リスク

リスク	分類	ドライバー	リスク内容	時間軸	影響度	重要度	対応策
移行リスク	法規制・政策	炭素税等による負担	自社排出量 (Scope1+2) に対する排出量取引などのコスト発生	中期	大	大	【Scope1】・省エネ設備等の導入・設備の電化や水素化 【Scope2】・再生可能エネルギーの導入
	法規制・政策	再生可能エネルギー価格の高騰	エネルギー費用抑制のための設備省エネ化や燃料転換コスト発生	中期	大	大	・生産の集約化・効率化 ・排熱の有効活用およびそれを可能にする生産・設備の最適化
	技術・市場	低炭素製品への投資	脱炭素関連製品*1の需要増加に対応するための開発・設備投資額*2増加	中~長期	大	中	・脱炭素をテーマとする研究開発の強化 ・新製品への投資に関するグリーンファイナンス活用 ・脱炭素市場動向の調査と製品への反映
物理リスク	急性	自然災害の激甚化	【売上被害】 自然災害*3に伴う営業停止による売上減少 【直接被害】 事業所の浸水等により被災した施設等の復旧費の発生	短~長期	大	中	【短中期】 ・排水設備の増設 【長期】 ・工場・設備の防災強化 ・リスク分散のための生産協力体制の構築 ・重要な設備や在庫への防水堤の設置、床面の上昇

機会

機会	分類	ドライバー	機会内容	時間軸	影響度	重要度	対応策
機会	資源効率	エネルギーの効率的利用	燃料使用量削減による運用コストの削減	中期	中	中	【Scope1】 ・ヒートポンプをはじめとする省エネ設備等の導入 ・廃棄物・排熱利用の促進 【Scope2】 ・再生可能エネルギーへの切り替え拡大 (PPA、太陽光発電、グリーン電力証書等)
	エネルギー源	再生可能エネルギー発電設備の導入	太陽光発電や蓄電技術の導入・拡大による、電力や燃料購入コストの削減	中期	小	小	・社内炭素価格の導入による省エネ投資の促進 ・設備導入におけるグリーンファイナンス活用
	製品およびサービス	低炭素製品の嗜好	脱炭素関連製品*1の需要増加に伴う売上増加	短~長期	大	中	・脱炭素をテーマとする研究開発の強化と市場動向の分析 ・新製品への投資額の増加
製品およびサービス	防災需要の高まり	防災性能の高い製品需要の増加に伴う売上増加	短~長期	中	中	・防災をテーマとする研究開発の強化と市場動向の分析 ・新製品への投資額の増加	

*1: 省エネ・高断熱・ZEB対応、リサイクル、CFPなどの認証付与、樹脂または木製組み合わせ等 *2: スクラップ専用炉、電気炉も含む
*3: 台風、高潮や洪水による浸水、自然災害によるサプライチェーン断絶等

・使用シナリオ: 【移行リスク】 IEA WEO2023 NZE205 【物理リスク】 ・IPCC RCP8.5 ・IPCC AR6 SSP5-8.5
・時間軸 短期: 1年以内、中期: ~2030年、長期: ~2050年
・影響度 大: 影響額3億円以上、中: 1億円以上~3億円未満、小: 1億円未満
・重要度: 時間軸と影響度を勘案して3段階で総合的に判断

指標と目標

不二サッシグループは、気候関連問題が経営に及ぼす影響を評価・管理するため、GHGプロトコルの基準に基づき2022年度の温室効果ガス排出量の算定を実施しました。温室効果ガス排出量の削減目標は、2021年度比2030年度までにScope1+2を42%削減、Scope3はカテゴリ1・4・11を対象に30%削減を目指しています。長期目標として2050年度までにネットゼロを目指します。

SBT 認定目標	Scope1	Scope2	Scope3
2021年度排出量	28,698 t-CO ₂ e	49,027 t-CO ₂ e	830,411 t-CO ₂ e
2030年度目標 基準年: 2021年度	42%削減 ▲12,053 t-CO ₂ e	42%削減 ▲20,592 t-CO ₂ e	30%削減*1 ▲240,349 t-CO ₂ e
2050年度目標	ネットゼロ達成		

*1: Scope3の2030年度目標の削減対象はカテゴリ1、カテゴリ4、カテゴリ11です。
*2: 一部海外グループ会社を目標の対象から除外しています。グループ全体の排出量はP32をご確認ください。
*3: Scope3 14 フランチャイズ、15 投資は算定対象外です。

サステナビリティマネジメント

Sustainability Management

サステナビリティの基本的な考え方

不二サッシグループは、中期経営計画において、『サステナブルな社会実現への貢献「選ばれる企業グループへ」』をメインメッセージとして掲げ、サステナビリティを経営上の最優先課題と認識しています。2030年に迎える創業100周年に向け、環境・社会課題を解決するものづくりやプロセス革新を続けることで持続可能な社会の実現に貢献するとともに強靱な事業基盤を確立し、すべてのステークホルダーの皆様から「選ばれる企業グループ」として持続的成長を目指してまいります。

ガバナンス

気候変動対応などのサステナビリティをめぐる取り組みの指針としてマテリアリティ（重要課題）を特定し、本レポート等において活動実績の報告を開示しています。取締役会は諸施策に関する監督を行っています。

2023年5月には、サステナビリティの取り組みを効率的に進めるための専門組織であるサステナビリティ推進

室を立ち上げ、2023年10月にはサステナビリティ委員会を立ち上げました。この委員会は四半期に一度開催され、サステナビリティの基本方針の策定およびサステナビリティ推進活動における計画、短期・中期・長期の目標策定、取り組みの推進・モニタリングを実施しています。

戦略

サステナビリティに関する戦略は、サステナビリティ推進室およびサステナビリティ推進部会が立案し、サステナビリティ委員会における審議を経て策定されます。

当社グループは、建材品・アルミ型材の製造および販売を主な事業としていることから、環境分野において、脱炭素に向けた取り組み（気候変動への対応）、循環型社会の形成、サプライチェーンマネジメントをマテリアリティに設定しています。

脱炭素推進に際し、SBT認定（短期目標、ネットゼロ目標）を2024年6月に取得しました。また、2024年2月、GXリーグ（GX：グリーントランスフォーメーション）への参画を表明しました。いずれも、当社グループが関わるサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量削減に貢献することへのコミットメントとして、今後も選ばれる企業グ

ープであり続けるために必要な取り組みであると認識しています。

脱炭素社会の構築のための具体的な取り組みとしては、断熱・省エネ・創エネ関連の商品開発、アルミリサイクル材・グリーンアルミの積極的利用、太陽光発電による再生可能エネルギーの導入等を推進しています。

社会分野におけるマテリアリティの取り組みの中で、人的資本への投資について、従業員一人ひとりの成長を支援する「働きがいのある会社」と、多様な人材の多様な働き方を支援する「働きやすい会社」を目指し従業員が能力を発揮できる制度・環境の整備を行っています。

他にも、持続可能な暮らしとまちづくりへの貢献に向けて、リニューアル事業の拡大や防災システム製品の研究にも取り組んでいます。

リスク管理

マテリアリティの特定のプロセスにおいて、リスクおよび機会を十分に検討しており、特にリスクについては、その内容に応じた各所管管理部署が経営レベルへ定期的に報告しています。今後は、サステナビリティに関するリスクを一元的に管理し、対応する委員会の設置等も考慮してい

きます。リスク管理のプロセスの詳細はP18に掲載していますが、その内容はサステナビリティ全般に関する説明であり、気候変動関連、人的資本および多様性、人権についても包含するものです。

指標および目標

サステナビリティ推進室およびサステナビリティ推進部会によって立案し、サステナビリティ委員会における審議を経て設定します。現在は、マテリアリティの中で優先

順位が高いと判断した項目から順に指標および目標を設定しています。

①脱炭素（気候変動対応）

2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目標として、2030年に向けた温室効果ガス排出量の削減目標を策定し、SBT認定の継続に努めます。また、経済産業省主導のGXリーグに参画し、脱炭素を成長の機会としても捉え、カーボンニュートラルを実現していきます。

②人的資本

多様な人材の多様な働き方への支援の一環として、女性活躍推進に向けて2024年6月に女性社外取締役を招聘し、採用者に占める女性割合、専門職に占める女性割合を、それぞれ30%以上とする目標に向け社内ですらなる建設的な議論を進めていきます。

国際人材の登用では不二サッシフィリピン社に不二サッシ設計センターを開設しました。現地への講師派遣、

日本国内の研修等を通じてスキル向上に努めるとともに社内における日本語教育充実等により高度外国人材の採用も実施しています。また、2022年7月よりカンボジアから技能実習生10名を受け入れ、2023年3月には全員が技能検定（基礎級）に合格しており、2023年7月には新たに10名の実習生を受け入れています。

障がい者雇用については社会福祉法人メイプルの運営支援を通じて障がい者の就業機会の確保に努めています。

③人権

人権に関する指標および目標の設定に向けた準備の一環で、2022年度より、当社サプライヤーに向けたアンケートにおいて人権デューデリジェンスの認識・取り組み状況をヒアリングし、回答状況を集計しています。今後は、人権に関する調査・分析結果を実情に合わせて整理し開示を検討していきます。

サステナビリティビジョン策定プロセス

不二サッシグループは、「経営理念」実現のための重要な課題として、『サステナブルな社会実現への貢献「選ばれる企業グループへ」』を標榜し中長期的な企業価値の向上に努めています。

そのために、すべての事業活動において環境・社会課題の解決に取り組むとともに、当社グループを取り巻く環境の変化に対応すべくガバナンスの強化を図っています。こうしたサステナビリティ経営をさらに強化するため、当社はこのたび、「経営理念」と環境方針、人権方針やコーポレートガバナンス等を結び付けるサステナビリティビジョンを下記の通り策定しました。

本ビジョンは、表題、基本方針、ESGの3領域における行動指針の三部構成で表現しています。

まず表題では、当社の創業100年に当たる2030年を越

えて、日本のカーボンニュートラル達成目標である2050年に向けた中長期的なビジョンであることを明確にしました。

次の基本方針では、経営理念に基づく企業活動がサステナビリティな社会実現への貢献につながると同時に、サステナビリティ経営の推進は経営理念実現のための重要な要素でもあるという認識を宣言しました。

そして、ESGにおける行動指針では、グループ全体および個人が具体的に取り組むべき方向を示しました。また、ESGは個別に行うものではなく、常に関連付けて全体として最適な道をとるべきものであり、そうすることによっていかようにも広げていける可能性があると考えています。その考え方をイメージ化したものが、併記しているパズル風の図です。

不二サッシグループ サステナビリティビジョン 2050

「不二サッシは 窓から夢をひろげていきます」の経営理念のもと、『サステナブルな社会実現への貢献・選ばれる企業グループ』を目指します。



E 環境 Environment

- ・2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指します
- ・暮らしを支える生態系の保全と回復を目指します
- ・資源循環の促進を追求します

S 社会 Social

- ・社会の期待に応える商品・製品づくりを追求します
- ・人権を尊重した公正な事業活動を実践します
- ・地域社会との協働を行います

G ガバナンス Governance

- ・全てのステークホルダーに対し、適切な情報開示と責任ある対話を行います

サステナビリティマネジメント(マテリアリティー一覧)

不二サッシグループは経営理念「窓から夢をひろげていきます」の考えのもとに、100年企業に向けてすべてのステークホルダーの皆様から「選ばれる企業グループ」として存在感を発揮するために、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

SDGsへの貢献

近年、持続可能な社会の実現のために政府・企業・関係者のすべてが自主的に取り組む国際目標SDGsの広がりによって、環境と社会を重視する経営への動きが加速しています。
このSDGsを経営戦略の重要事項と捉えて社会情勢や事業環境を踏まえ、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)の観点で、不二サッシグループのマテリアリティー(重要課題)を特定しています。
マテリアリティーの優先順位と具体的目標の設定を進め、それらを踏まえた経営戦略に基づく事業活動の推進によって社会課題解決と価値創造を目指していきます。

マテリアリティー		推進施策、指標および目標	2023年度実績	対応するSDGs	掲載ページ		
環境	脱炭素に向けた取り組み (気候変動への対応)	消費エネルギーおよびサプライチェーンCO ₂ 排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 断熱商品 FNS-II 100RS/FNS-RER/FNS-II 改装サッシ インプラードII/インナー防火スクリーン ● 省エネ商品 アルビームカーテンウォール/アルビームインテリア/アルビームプラス フォルティナ® ● 電力消費量原単位:前年度比1.9%削減(消費量0.5%削減) ● Scope1+2原単位:前年度比0.02%削減 ● グループScope1+2=70,032t(前年+1.4%)、Scope3=705,920t(前年-15%) ● SBT目標提出(※2024年度取得済) ● 東鋳造アルミリサイクル率70% ● 従来の施策を促進(冷暖房使用抑制 / デマンド監視運用 / 照明LED化および自動制御 / 断熱改修等) ● デマンドレスポンス対応7回 		13-17		
		再生可能エネルギーの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● メガソーラーシステムの安定的運用による発電計画の達成 ● 太陽光発電システムの増設 ● 3基のメガソーラーシステムを運用(千葉事業所第一発電所、第二発電所、関西不二サッシ発電所) CO₂排出削減貢献量: 1,504t(3基合計発電量: 4,226MWh) 		13, 19-21, 32-34		
		環境エンジニアリングによる貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● ごみを無害化・資源化する処理施設の設計~維持管理 ● 重金属溶出防止や土壌粉塵防止など各種薬剤の製造販売 	<ul style="list-style-type: none"> ● 納入機器のメンテナンス推進 ● エコ混練機の販売 ● キレート剤(重金属の溶出防止剤)の販売 ● フライネットR(植物原料・生分解性の粉塵防止剤)の販売 		12, 15, 35	
		循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源の有効活用およびゼロエミッションの推進 ● 廃棄物排出量の削減 ● 廃棄物のリサイクル率97.0%以上 ● 新設備・技術導入による省資源化や設計・生産計画改善による生産量最適化 ● 水使用量の低減および地域貢献活動 ● 製品含有の化学物質削減 ● SDS等に基づく部品・部材の安全性確認 ● VOC排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業廃棄物排出量: グループ全体 26,671t(拠点解体由来11,678t含む)(生産拠点13サイト 12,896t) ● リサイクル率: 生産拠点13サイト 96.9% ● 図面および仕様チェックによる、過剰設計の防止や運送効率への配慮 ● 梱包の仕様・作業改善 ● 事業継続計画(BCP)の一環として地下水膜ろ過システムを運用 ● 開発商品に使用する材料のSDSを確認し、指定化学物質の使用を回避 		32	
	サプライチェーンマネジメント	グリーン調達への推進	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーン調達に向けた部品・材質への切り替え ● サプライチェーンの環境活動向上への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンの環境活動調査 ● 樹脂部品の材質刻印の推進 ● 各生産拠点個別購買から集中購買比率向上の推進 		33	
	物流におけるサステナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ● 全社での物流改革 ● 輸送の効率化、モーダルシフト 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全社テーマとして「物流改革プロジェクト」を推進 ● 省CO₂・熱中症対策トラック導入 ● 「ホワイト物流」推進運動 ● 自主行動宣言: 運転者の労働環境改善の推進や、働き方改革に取り組む物流事業者の活用 		15, 34		
	社会	人権の尊重および従業員満足度の向上	人権デューデリジェンスおよびダイバーシティ&インクルージョン	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権デューデリジェンスの推進 ● ハラスメント対策 ● 多様な働き方の支援 ● 育児支援制度の活用推進 ● 女性従業員の採用・育成・定着 ● 採用者の女性比率目標: 30%以上、女性管理職比率目標: 10%以上(現在5%前後) ● グローバル人材の活躍推進 ● 障がい者就労支援活動の推進 ● 定年後再雇用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライヤーの人権取り組み調査 ● ハラスメントの防止 ● 育児休業利用者: 17名(前年度比70%増) / 短時間勤務利用者: 15名(前年度比36%増) ● 障がい者施設との業務委託契約締結 ● 社内インターンシップによる能力開発・キャリア形成 ● 女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」の実施 ● フィリピン・カンボジアなど国際人材の登用 ● 障がい者雇用率: 2.72%(前年度比0.08%増) ● 定年後再雇用者数: 20名(前年度比9%減) 		14, 20-21, 25-31
			人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア開発のための取り組み ● 人的資本育成の強化・拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ● 通信教育による自己啓発促進 ● 公的資格取得支援 ● 社内研修制度 ● エンゲージメントサーベイ ● 多能工化(マルチタレント化)推進 		29
			従業員の健康促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員の健康のための取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前立腺検査受診率: 93% / 乳がん検診受診率: 45% / 子宮がん検診受診率: 38% / 人間ドック補助利用者: 本人39名、家族8名 ● 働きやすい制度の整備: 時差通勤の推進 / テレワーク(およびそれを利用した出勤シフト制)の推進 		30, 31
		公正な事業慣行	サプライヤーの労働環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ホワイト物流」推進運動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ホワイト物流」推進運動 ● 自主行動宣言: 運転者の労働環境改善の推進や、働き方改革に取り組む物流事業者の活用 ● トラック荷台昇降用ステップ「グラディーノ〜gradino〜」発売 		17
お客様サポート		製品品質・安全への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品安全行動指針に基づくCS活動推進 ● 製品事故・品質異常の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● HPに消費者への注意喚起を掲載 ● 動画をを用いた取扱説明書 		26	
コミュニティ参画および発展		持続可能な暮らしとまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● リニューアル事業の拡大 ● 都市防災・インフラBCP強化への貢献 ● 健康・福祉の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● CW試験センターにおける産官学との共同研究や社外からの自然環境模擬試験等の受け入れ ● 「10層鉄骨造オフィス試験体による建物の動的特性評価実験」に参画(光センサーアラートシステムの設計・製作・施工) ● 先進的窓リノベ事業、こどもエコすまいる支援事業の対象製品を設定 ● 全国事業所における清掃・防災・献血活動など ● 令和6年能登半島地震の被災地支援 ● 千葉県による絶滅危惧種ヒメコマツの回復計画に系統保存サポーターとして協力(苗の育成・管理) ● 学生のインターンシップや見学の受け入れ 		12-14, 16	
社会貢献活動・文化活動などの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業所周辺地域との連携による社会貢献活動 ● 環境貢献活動への支援・参加 ● 各種学校との連携による学生のスキルアップ ● 音楽・スポーツ・芸術などの活動の支援 ● 被災地等の支援活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役会の実効性評価 ● コンプライアンスの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役会の実効性評価の実施 ● ガバナンス強化施策(役員報酬の決定方針・社外役員との意見交換会等) ● サステナビリティ委員会設立 ● サステナビリティビジョン 2050策定 ● 戦略立案プロジェクトチーム発足 		13, 18-21, 24, 25		
ガバナンス	企業統治	コーポレートガバナンスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス教育の充実 ● 法規制・条例、その他規制の遵守状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 法遵守のためのコンプライアンス教育の実施 ● 関係会社への法遵守環境監査実施 ● 環境法令違反件数: 0件 		24, 25	
	コンプライアンス	法規制や社会規範の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ● ステークホルダーとの対話の推進 ● ステークホルダーとのコミュニケーション機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ● アルビーム通信の発行 		16, 26, 36	
	コミュニケーション	ステークホルダーとの協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術力・施工力の強化 ● 製品の安定供給 ● マグネシウム事業の推進 ● 危機管理・対応能力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子タグ(RFID)を用いた建築部材の一元管理の実証(他社協働) ● IT戦略構築プロジェクト ● マグネシウム合金生体吸収性ステント研究開発に関する共同研究開発契約 ● 不二サッシリサイクル工場移転 ● 「一般社団法人住宅開口部グリーン化推進協議会」運営に参画 		13, 15, 16, 30, 34, 36	
	成長戦略・事業継続計画(BCP)	グループの成長・発展	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外事業の再構築 ● 国内外企業の株式取得、業務提携 ● 製品・サービスの受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「日本産業広告賞」入賞 		12, 13, 36	

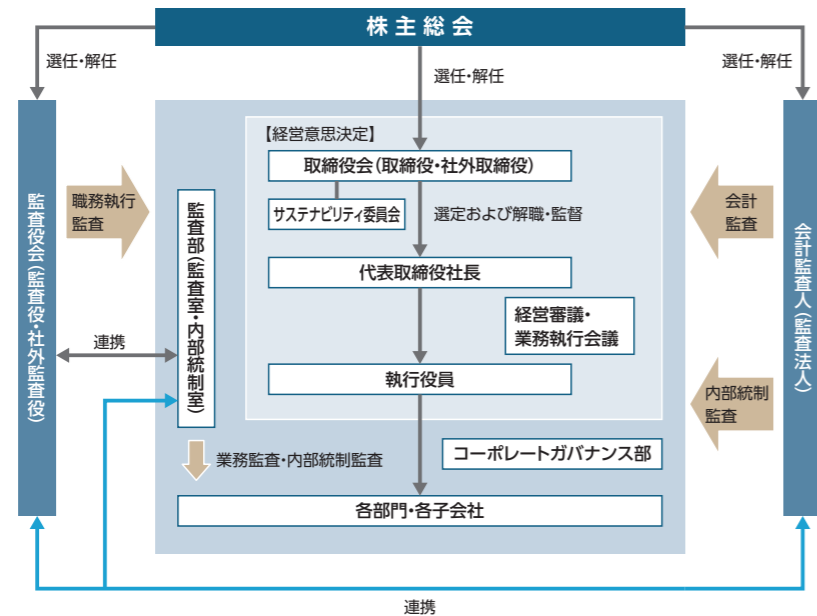
G | ガバナンス

基本的な考え方

グループ全体の企業価値の向上と強固な経営基盤の構築を通じて、お客様に信頼され、社会に貢献し続けるという経営基本方針を実現するため、責任ある経営体制の確立と、経営の透明性向上並びに経営に対する監視・監督機能の強化に努めることで、ガバナンスの強化を図っています。



コーポレートガバナンス体制



コーポレートガバナンス

主な機関の概要

取締役会

当社の取締役会は、経営の監督機能が適切に発揮されるよう、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資する資質を備えた構成としています。昨年の株主総会以降は、取締役7名（うち独立社外取締役2名）、監査役3名の計10名で構成しています（2024.6現在 取締役8名（うち独立社外取締役3名）、監査役3名の計11名）。

取締役会は、原則として月1回の開催のほか決算承認等、2023年度は年間20回開催し、当社および当社グループの重要な経営方針の決定、業務執行の監督、業務執行状況の報告等を行っています。また、昨年の株主総会後からは、議案・報告のほか、当社グループの企業価値向上に向け、取締役会で様々なテーマについて討議を行っています。

監査役会

当社の監査役会は、現在、常勤監査役1名、社外監査役2名（うち独立役員1名）の計3名で構成しています。監査役会は、会社の内部統制システムや内部監査部門、会計監査人との緊密な連携を図りつつ、監査役会が定めた監査方針に従って年度の監査計画に基づく監査を実施し、監査役会において、監査の実施状況や結果に関する情報の共有、意見の交換を行っています。また、2023年度は、海外拠点の不二サッシフィリピン社に常勤監査役が現地往査を行いました。

役員報酬

報酬の決定に関する方針

取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しています。取締役および執行役員の

報酬に関しては、独立社外取締役が参画する「役員人事・報酬協議会」において、個別役員の報酬額の案を協議のうえ策定し、取締役会において決定しています。

実効性評価

取締役会が有効に機能しているかを検証するため、2023年度において、各取締役による自己評価などを実施し、運営面の確保および審議の内容に関して分析しています。

その結果、各役員から、「資料提供に関しては、引き続きタイムリーに配信できるよう各部門との連携に努め、事前説明については、配信時に留意事項等の案内を加えるなどの対応を検討する必要がある。また、本年度から行っている討議事項については、各役員からの議題提案や社外役員の意見等を積極的に取り入れ、議論を十分かつスピード感を持って進めることが重要」との指摘がありました。

取締役会は今後も経営戦略を決定・推進する機関として、中期経営計画およびコーポレートガバナンスコードの方針に基づき、業績向上に向けた議論をさらに深めていく必要があります。引き続き取締役会の監督機能を強化するとともに、企業の持続的な成長に資するため、実効的な監督、ガバナンスの強化につなげていきます。

社外役員の意見

労働力人口の減少が今後の大きな課題であり、組織の活性化、若手人材の成長促進において若手取締役の登用は必要。しかし急速な若手登用はベテラン社員からの不満・反発のデメリットも予想される。まずは成果主義に基づく若手社員の管理職への登用の制度化を促進する必要がある。

社内役員の意見

将来（先ずは2030年）を見据えた必須項目としての事業ポートフォリオの見直しと、そのベースとなる組織・人・設備への投資等に対する（現状を踏まえた）長期方針としての基本的考え方などについて、取締役会で議論を充実させていく必要がある。

コンプライアンスの推進

コンプライアンスセミナー

2023年度は、新型コロナウイルスの5類への移行により、現地での対面による実施セミナー（リモート含む）を、当社本部および6支店ならびに千葉工場、不二ライトメタル3エリアで開催しました。「みんなで考えよう！ ハラスメント防止のために」と題し、セクハラ・パワハラに関するディスカッションを中心に90分の講義を行い、グループ

ディスカッションでは、各グループで活発な意見交換が行われ、様々な回答結果を共有することにより、コンプライアンス意識の向上につなげることができました。

また、例年同様以下の動画を全従業員が受講し、受講内容等について好評を得ました。

対面による実施セミナー各拠点の受講者数

日程 (対面)	2024.01.16	2024.02.02	2024.02.07	2024.02.08	2024.02.09
部署・拠点	環境事業部	名古屋支店	関東支店	FLM大阪	大阪支店
受講者数(名)	36	36	40	13	88

日程 (対面)	2024.02.15~19	2024.02.21	2024.03.15~19	2024.03.27
部署・拠点	東京支店、設計、FLM	横浜支店	不動産(本部)	千葉(本部)
受講者数(名)	168	34	232	48

Webによるリモートセミナー各拠点の受講者数

日程 (Web)	2024.02.14	2024.02.14
部署・拠点	中四国支店	FLM九州
受講者数(名)	27	14

FLM=不二ライトメタル

動画による研修テーマ

受講形態	コンテンツ	担当部門
必須	事例に学ぶコンプライアンス概論	コーポレートガバナンス部
必須	インボイス制度と電子帳簿保存法	経理部
必須	ハラスメント防止のために	総務人事部
(※)	これからの不二サッシグループのサステナビリティ	サステナビリティ推進室
選択	建設業法について	
選択	コンプライアンス違反を防ぐために	コーポレートガバナンス部
選択	不正行為を発見した場合の相談の乗り方と対処の仕方	

(※)サステナビリティレポートを未読の者は必須、既読の者は選択

現地開催（リモートを含む）で736名、動画視聴によるセミナーで2,192名の役職員が受講しました。

今後もコンプライアンス浸透のため、動画や対面を織り交ぜたセミナーを推進していきます。

ホットライン

不二サッシでは、法令違反や社内規程違反を通報する窓口として、「不二サッシ企業倫理ホットライン」を設けています。社内報に「企業倫理ホットライン」の通報先を毎回掲載するなど社内周知を行い、第三者機関の窓口を利用することで、通報者の保護と適正な処理を図っています。問題の早期発見と解決を図っています。

さらに、2022年6月から従業員100名以上の6拠点に相談窓口を新設し、窓口を増やすことで通報しやすい環境づくりに努めています。2023年度は、これに係る各拠点の担当者に、オンラインにて外部セミナーを受講させ傾聴方法や対応の心構えに関して教育を実施しました。また、その運用・通報状況について取締役会および監査役会で報告を行うとともに、グループ内のイントラネットで開示しています。

S | 社会

基本方針

社会の期待に応える商品・製品づくりを追求します
人権を尊重した公正な事業活動を実践します
地域社会との協働を行います



ハイライト(不二サッシ単体)

管理職に占める女性の割合	障がい者雇用実績	定年後再雇用の実績	育児支援制度利用者数
5.7%	2.7%	95.2%	32人(内男性5人)

製品品質・安全への取り組み

不二サッシグループ 品質保証体制

基本方針

コンプライアンス経営に基づいた安心、安全で地球環境に優しい商品づくりを通して、グループ全体で顧客満足に徹し、会社業績の貢献に向け邁進する。

不二サッシグループ 製品安全行動指針

不二サッシグループは、コンプライアンス経営の一環として、製品安全を経営上の責務と位置づけ、お客様に安心、安全な製品をお届けするために、グループ全体で製造・販売する製品の安全確保に努め、社会に貢献し、信頼される企業となるよう積極的に取り組んでいきます。

Web【トップ>企業情報>製品安全行動指針】



2023年度活動実績

品質管理活動報告

ISO9001・JIS取得状況

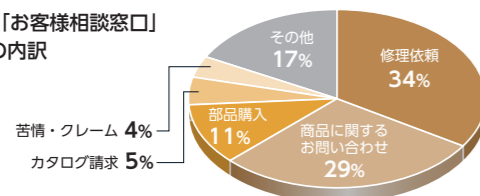
各生産拠点でISO9001およびJISマーク表示制度を取得するとともに、それに則った品質マネジメントシステムを構築し、グループ全体で品質管理活動の取り組みを強化することで、品質レベルの維持向上を図っています。

CS推進活動報告

お客様相談窓口

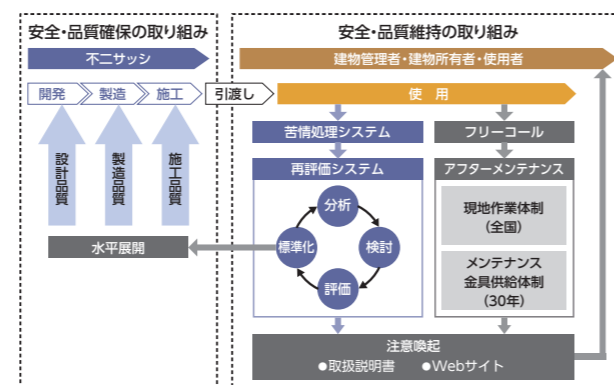
お客様からのフリーコールによるメンテナンス部品の購入やメンテナンスの依頼などに対しては、お客様の在住エリアを認識し、直接、担当地域の窓口へ迅速につながる転送システムを採用し、お客様満足の向上につなげています。

2023年度「お客様相談窓口」受付内容の内訳



苦情処理対応

お客様からの苦情・クレームは担当拠点(支店、営業部門)が受け付け、調査、対策を協議し、対応します。苦情・クレーム対応の情報は、苦情処理システムで品質保証部が受け付け、改善が必要な事象については、「再評価システム」で分析、検討、標準化を行い恒久対策を講じます。これらの情報や対策は、各部門の情報ツールを通じて水平展開し、再発防止につなげています。また、新商品を開発する際の確認項目として用いられています。



不二サッシグループ各社の活動

創立50周年を迎えて

しらかか不二サッシは1973年5月10日、山形県白鷹町で創立し50年間アルミサッシの生産を行ってきました。弊社の製品は町立の施設はもとより、近隣自治体の施設や民間商業施設等にも数多く採用していただきました。これからも地域に根差した生産活動を行っていきます。



不二サッシ 江崎社長



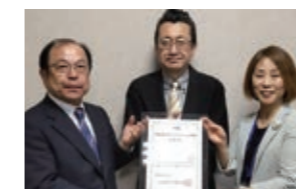
しらかか不二サッシ 中川社長

障がい者施設との業務委託契約締結

しらかか不二サッシでは、障がい者の方への活動の場の提供と生産性の向上を目的とし、障がい福祉サービス事業所「こぶしの家」と業務委託契約を締結しました。これにより、山形県の「ふれあいパートナーシップ企業」に登録された県のホームページでも紹介されました。委託内容は千葉工場より納入された加工済材の開梱および緩衝材の紐を解く作業となります。この作業を委託することにより、従業員が付加価値の高い作業に専念することができ生産性向上につながりました。また、障がい者の方にとっては施設からの距離が近く通いやすい、作業内容も単純なため、従事しやすいといった、お互いメリットのある契約となりました。今後は違う作業の依頼の検討を含め、継続的に活動の場の提供を行っていきます。



登録証



写真左：山形県協同受注センター 榎木様、作業風景
中央：しらかか不二サッシ 中川社長、
右：こぶしの家 竹田施設長

学生の受け入れ

不二サッシグループでは毎年インターンシップや工場見学など学生に向けた取り組みを行っています。2023年度の実績をいくつか紹介します。

まず関西不二サッシでは地元の中学生の職場体験を受け入れました。初めての試みでしたが、大人とは違った目線の意見をいただく貴重な機会となりました。

不二サッシ九州でも、地元の高校からインターンシップを受け入れました。実習後には学校長より「教室の中だけでは得られない貴重な体験ができた」とお礼状をいただきました。学生の成長に貢献できたのであれば嬉しく思います。

最後に、日海不二サッシでも40年以上の長きにわたり、近隣の中学・高校を対象に就業体験・インターンシップの受け入れを継続して行っています。振り返ってみると、逆に私たちが地域に受け入れていただいていたのだと感じます。

今後も地元自治体や学校側と協力し、学生の進路選択の一助になるよう継続していきます。

不二サッシでも受け入れを行っています



技術本部 インターンシップ報告会



千葉工場 小学生工場見学

能登半島地震の被災者支援のための義援金寄付

2024年1月1日に発生しました「令和6年能登半島地震」により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

不二サッシでは、石川県内で操業している日海不二サッシおよび北誠産業とともに、被災者への復旧支援のため石川県に災害義援金を寄付しました。

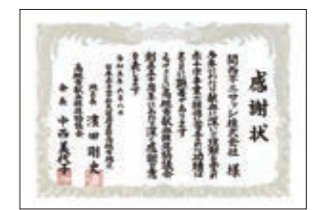
被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

献血活動

不二サッシグループでは、従業員等を対象にした献血活動を毎年実施しています。

関西不二サッシでは毎年2回実施しており、2023年度は高槻市献血推進協議会創立50周年記念式典に招待していただき感謝状ならびに記念品が贈呈されました。

今後も活動を継続し、人命救助の一翼を少しでも担っていきます。



感謝状

人権の尊重

不二サッシグループ人権方針

人権に関する国内外の法令化やガイドライン公表などの動きを踏まえ、2022年10月、不二サッシグループの人権方針を策定いたしました。

基本方針

不二サッシグループは、「経営理念」に基づき、人権の尊重をサステナブルな社会実現への課題の一つとして、すべての事業活動において、ひとり一人が、「あらゆるステークホルダーの人権が尊重されることが不可欠であること」を認識して行動し、「人権尊重の責任」を果たします。

また、事業活動、製品及びサービスにおける全事業領域の活動として、

1. 人権尊重における法令、規範の遵守
2. 差別、ハラスメント、不当労働の禁止
3. 製品品質、安全性等の情報開示
4. ステークホルダー全体への人権尊重
5. 活力ある職場環境づくり
6. 人権デューデリジェンスの推進
7. 本方針の社内外への教育
8. 人権への負の影響の是正
9. 人権尊重への取り組み開示 (以上要約)

以上の行動指針に従い

人権尊重を徹底いたします。

Web【トップ>企業情報>当社のサステナビリティ】



障がい者雇用

不二サッシは、社会福祉法人メイプル^{*1}の運営などを支援し、社会的責務を果たすべく、障がい者の就業機会の確保に努めています。

障がい者雇用は、障がいのある方が障がいのない方とともに一般企業においてごく自然に働けるという「ノーマライゼーション」の理念に基づいています。メイプルでも設立当初から不二サッシの技術指導を受け、面格子、ガラリといった建材製品を製造しており、現在、8名の障がいのある方々が不二サッシの社員としてメイプルの従業員と一緒に勤務しています。

コンプライアンスの観点からも、また、企業の社会的責任を果たすという観点からも不二サッシはメイプルとともに労働力の多様性向上に取り組んでいきます。

*1:障がい者の就労継続支援を行う事業所として1995年、滋賀県に誕生。

女性活躍の推進

女性活躍推進法「一般事業主行動計画」策定

女性従業員の個性と能力を十分に発揮できる環境整備を行うため、行動計画を策定し、取り組んでいます。

1. 計画期間

2021年(令和3年)4月1日から2026年(令和8年)3月31日

2. 当社の課題

- (1) 女性の採用数が少ない(特に専門職種)。
- (2) 正社員と同等の業務を担っている非正社員の雇用環境改善が進んでいない。

3. 計画内容

目標1：採用者に占める女性割合を30%以上とする
(取組内容)

- 求職者に対する積極的な広報(特に、専門職種に対する広報)。
- 育児・介護・配偶者の転勤等を理由に退職した社員に対する再雇用制度の導入・利用促進。

目標2：専門職種に占める女性割合を30%以上とする
(取組内容)

- 職域拡大のための情報提供。
- 一般職種を対象とした研修制度の導入。

目標3：非正社員の職種・雇用形態の転換を実施する
(取組内容)

- 非正社員の処遇を見直す。
- 非正社員を対象とした職種・雇用転換を推進する。

高齢者の再雇用

高齢者雇用は、少子高齢化が急速に進展し、人口減少に伴う労働力不足という中長期的な視点からも重要な課題です。不二サッシは、定年後も継続して勤務できる再雇用制度を導入し、就業機会を確保するとともに、それぞれの経験と知識を活かし活躍する環境を整えています。

人権デューデリジェンスの推進

人権リスクの把握のため、2023年度は、サプライヤーに向けたアンケートにおいて人権デューデリジェンスの認識・取り組み状況をヒアリングし、その結果に合わせた情報提供などを実施しました。今後は、人権課題に取り組む社内ワーキンググループの設置を行い、人権リスクの特定・評価を行ってまいります。

人的資本の育成

人的資本への取り組み

当社では企業発展の原動力は優秀な社員であるとの認識に立ち、経営理念・経営方針に則り、仕事に対する生きがいを持った創造的な従業員の育成を図ることを基本的な考え方としています。今年度より従業員のエンゲージメント向上、実態把握の観点よりエンゲージメントサーベイを導入しました。現在策定中の次期中期経営計画においても次世代を担うべき社員を中心に外部の知見も取り入れて当社の将来像を考察する取り組みも実施しています。また、自発的にキャリアパスを考える仕組みの一つとして引き続き社内インターンシップ制度の活用も促進してまいります。

エンゲージメントサーベイの開始

2024年度より32問からなるエンゲージメントサーベイの運用を開始しました。サーベイの結果がスコア化されることにより、各組織の状況が浮き彫りになります。そこから問題はどこにあるのか、または、スコアの良い要因はどこにあるのかを分析していきます。1年に4回のサーベイ実施とAIによる分析結果から施策検討、実行、確認といったPDCAを繰り返すことで、組織の向上と改善に取り組んでいきます。

運用開始時はグループ長以上の管理者に対して、エンゲージメントの意味、重要性についての研修を実施。また、各部門から10名のアンバサダーを選出し、サーベイの運用を推進することで、従業員一人ひとりに自らが組織づくりの一端を担っていることを実感してもらい、会社と従業員との信頼や絆を深めていきます。

多能工化、マルチタレント化

不二サッシグループでは、人材活用および業務効率化の一環として、e-BIC II という、BRAVO(積算システム)の見積データをそのままCADおよびPDFに図面化できるシステムを導入しています。

このシステムを利用することにより、集合住宅の工事に多く見られるRC造の納まりなど標準的な納まり図なら営業でも作図できるようになり、全国の支店で設計への負荷を減らすとともに図面提出までの時間を短縮でき、顧客対応においてもメリットがある上、設計担当以外の若手も納まりに関する知識を習得することにつながり、多能工への足掛かりになっています。

教育・キャリア支援

当社では様々な教育訓練を実施し社員の育成に努めています。主な人材育成・人事制度として、以下の通り実施しています。

- 多種多様な研修制度
- 通信教育受講料の援助
- 公的資格取得推進のための手当支給
- 自己申告書による適材適所の人材配置
- 職能資格制度に基づく公正公平な人事

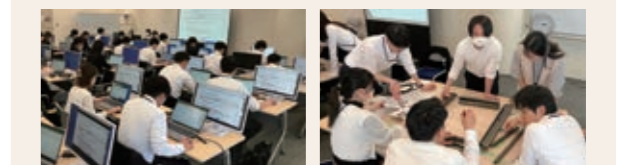
TOPICS 新入社員研修

新入社員研修は約3カ月間、サッシに関することをトータル的に学ぶ場となっています。特定分野を突き詰めることも大事ですが、色々なことを吸収できる新入社員の時期になるべく多くの分野に触れることで、様々な部門に興味を持ってもらうことを目的として行っています。

ここで学んだ知識やスキルをすぐに活かすことは難しいかもしれませんが、日々の業務の中でコツコツと積み重ねることにより、生産性の向上や新しい気づきなど、将来的な企業価値の向上に役立ててもらえることを期待しています。

また研修終了前には全員に対しヒアリングを行っています。研修の感想や配属希望の部署など双方にミスマッチが起きないように仕組みも設けています。

新入社員研修は社会人への第一歩となるとても大切な時期となるため、基本を学ぶことはもとより、同期とのつながりを構築することが何よりも大切だと考えています。



新入社員研修

国際人材の登用

不二サッシフィリピン社(フィリピン共和国)に、「不二サッシ設計センター」を置き、現地従業員に日本国内での設計研修に参加してもらい、設計スキルの向上に努めています。また、優秀な現地従業員の、不二サッシへの転籍により、日本国内の事業所において一緒に仕事をできる環境をつくっています。

また、2022年度から受け入れているカンボジアの技能実習生は現在20名ほどになり、工事共済会東京支部会員の協力による指導のもと、現場にて取り付け作業に励んでいます。今後も受け入れを増やしていく予定です。

次世代育成の推進

次世代育成の一環として以下の一般事業主行動計画の実施に向けて取り組んでいます。

●一般事業主行動計画

従業員が仕事と子育てを両立させることができ、全役職員が働きやすい環境をつくることで、全ての働く人達がその能力を十分に発揮できるようにするため、次のように行動計画を策定する。

1. 計画期間

2020年(令和2年)4月1日から2025年(令和7年)3月31日

2. 計画内容

目標1：子の看護休暇制度を拡充

目標2：育児休業中の社員に対する能力開発及び向上に対する施策の実施

- (1) 育児休業中の通信教育受講
- (2) 育児休業中の情報提供・教育のルール化

目標3：中途退職者再雇用制度の充実

目標4：両立支援制度の利用状況、両立支援のための取組の成果等を把握し、改善点等を検討

IT戦略構築プロジェクト

不二サッシグループでは、DX(デジタルトランスフォーメーション)は経営上の重要な課題であると認識し、中期経営計画(2022-2024年度)においても「変革(DXの加速等)へ挑戦し、生産性向上・営業強化を図る」と掲げています。

外部環境として今後労働人口は減少し続け、当社もその影響は避けられません。その中で持続的に成長するためには生産性向上が不可欠であり、デジタルおよびそのシステムの面では、生産工程の自動化、データの一元化や部分最適による分断が存在する業務システムの再構築など様々な改革が必要となります。

その一環として、これまでも、電子タグ(RFID)を活用した建築部材のトレーサビリティ確保や画像認識AIを活用した作業の自動化などを検討し取り組んできました。しかし、これらはグループ全体から見れば限定的な取り組みです。

そこでこの度、当社グループはまずDXのグランドデザイン(中長期的なゴール)を定め、不二サッシ管理本部が中心となってITに関する戦略構築のプロジェクトを立ち上げました。現在はその第一段階として、IT環境の整備、基幹システムの刷新やITガバナンスの強化に全社体制で取り組んでいます。

ワークライフバランス

働きやすい制度・環境

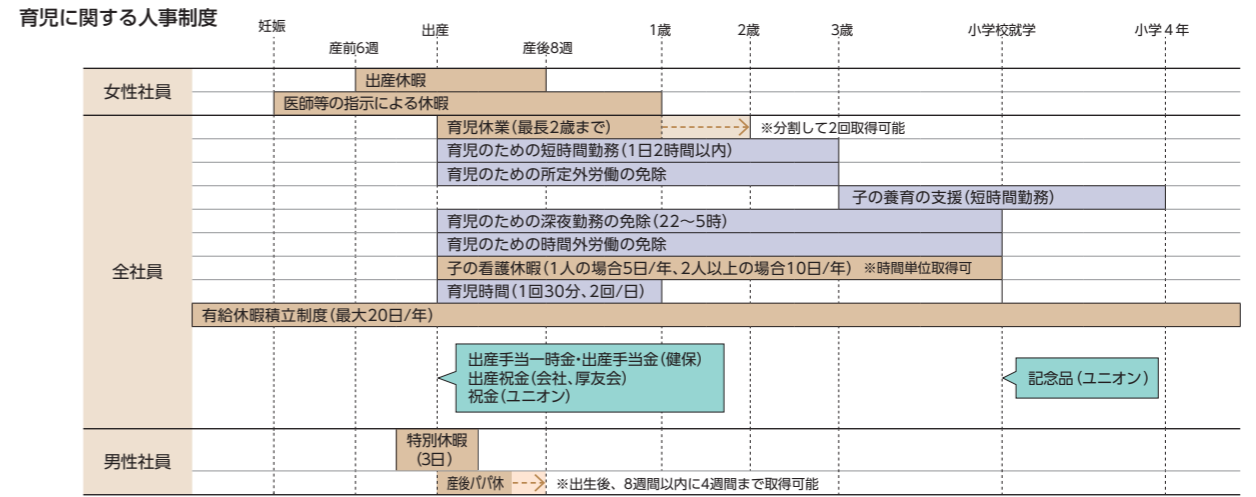
介護支援として、付与された年次有給休暇のすべてを半日ずつ使うことが可能です。また、「有給休暇積立制度」として、2年経過で消滅する年次有給休暇を1年間延長することができます。

働き方改革の施策の一つとして、時間を有効活用できる

「テレワーク勤務制度」(在宅、サテライト、モバイル)を実施しており、育児・介護のために利用することも可能です。

仕事と育児の両立

育児休業期間が終了し、職場復帰後も、小学校第3学年が卒業するまでの間、育児を支援する短時間勤務等の制度を導入しています。



VOICE

育児休業を取得して

1 不二サッシ 東京支店 石川 知男・奈津希夫妻

昨年6月に長男が誕生し、半年間の育児休業を取得しました。休業中は初めての赤ちゃんの世話に夫婦2人で試行錯誤しながら取り組むことができました。自分が家事や育児を行うことで、普段相手がしてくれていることの大きさ、大変さを知ることができました。また、新しいことにも自分の経験から考えた上で相談することもできるようになりました。各々の役割を固定せず状況に応じて対応できるようになったことは今後の強みになると感じています。育児休業の期間中、天気の良い昼間に家族3人で近所を散歩しているときなど、育休を取って本当に良かったと感じる時間でした。太陽の光を見るとくしゃみをするところは自分と同じで、そういったことにも気づけて改めて自分の子どもなんだと実感できました。

最後に、育休の取得にあたり業務および人員の調整にあたってくれた上司やグループの方々にはとても感謝しています。この半年間のおかげでとても貴重な時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

●妻より

家族3人で一緒に過ごせた半年間はこれから始まる長い子育てにおいてとても大切な時間だったと感じます。初めての育児で何もわからない中、悩みを共有し、新しい成長を楽しむことができる人が常に隣にいてくれることはとても心強かつ

たです。主人が仕事をしながらでは、時間的にも気持ち的にもここまで頼り、同じ目線で子育てを始めることはできなかったと思います。何より、息子がお父さん大好きで、復帰後は毎日主人の帰宅を満面の笑顔でお迎えしている姿を見ると、子どもにとって良い環境をつくれたと感じます。半年間と、周りでは例のない長期の男性育児休業の取得にはたくさんの苦労があったと思いますが、家族のためにこの時間をとってくれた主人に感謝しています。



2 不二ライトメタル 西資材生産部 本蔵 勝正

今回2人目の子どもの出産で長男が3歳ということもあり、長男の育児対応も含め育児休業取得について以前から妻と相談していました。上長に相談し職場内の先輩たちにも協力していただくことができ、あまり心配することもなく取得することができました。約1ヵ月の育児休業期間中は、普段はあまりできていない長男の保育園の送迎や家事を行いながら、生まれたばかりの次男の成長を間近で見ることができました。手伝いではありますが家事と育児の両立の大変さを身をもって感じる事ができ、妻や両親への感謝の気持ちがより一層強くなりました。職場の方々が早く育児休業に送り出してくれたおかげで貴重な体験ができ感謝しています。今回の経験から今後より一層育児と仕事の両立で頑張っていきたいと決意しました。

労働安全衛生

労働安全衛生に対する基本的な考え方

「安全衛生はすべてに優先する。安全衛生なくして生産性、品質の向上なし」という、トップの決意のもと、決めたことは守り、守ってもらい、不安全状態、不安全行動を完全に排除する職場づくりを安全衛生管理の基本方針としています。

従業員の健康増進

不二サッシは不二サッシ健康保険組合と協同で、毎年実施する特定検診(定期健康診断)・特定保健指導等により、従業員の健康状況を把握し、疾病の早期発見と予防のための適切な管理を行っています。

日本人の2人に1人が「がん」になるといわれており、その「がん対策」として早期発見、早期治療のため、希望者を対象に「人間ドック」「乳がん検診」「子宮がん検診」「前立腺検査(PSA)」の受診補助を実施しています。また、健康診断結果をもとに、再受診の勧奨や特定保健指導などのフォローも行っていきます。

令和4年度労働安全表彰「特別優良賞」を初受賞

不二サッシ千葉工場は、(社)日本アルミニウム協会が選考する「令和4年度労働安全表彰」において、「特別優良賞」を受賞しました。

この表彰は、直近3年間に於いて従業員の「休業および不労災害がゼロであること」・「労働安全衛生規則第96条(火災および爆発)の届出事故が無いこと」・「構内協力会社も休業及び不労災害がゼロであること」のすべてを満たすことが条件となっています。

今まで「優良賞」は6回受賞していますが、「特別優良賞」は今回が初の受賞となりました。

千葉工場では、今後も職場および従業員の安全と安心を確保するため、「安全朝礼」をはじめ、様々な活動を通して、構内で働く全従業員のさらなる意識向上と連続の受賞を目標に日々の業務に取り組んでいきます。



環境安全部 西川部長

E | 環境

基本方針

2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指します
 暮らしを支える生態系の保全と回復を目指します
 資源循環の促進を追求します

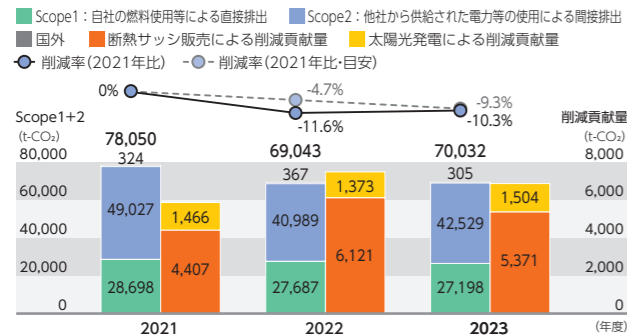


ハイライト

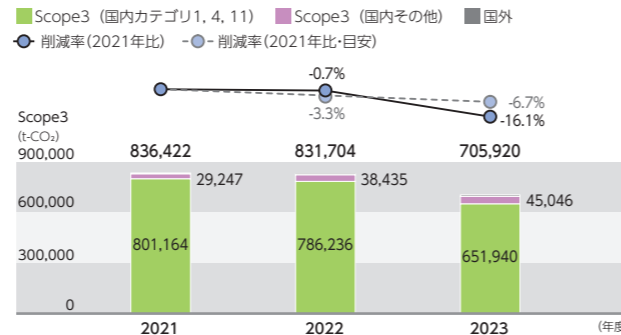


2023年度の事業活動における環境負荷

CO₂排出量(Scope1+2)およびグループ削減貢献量

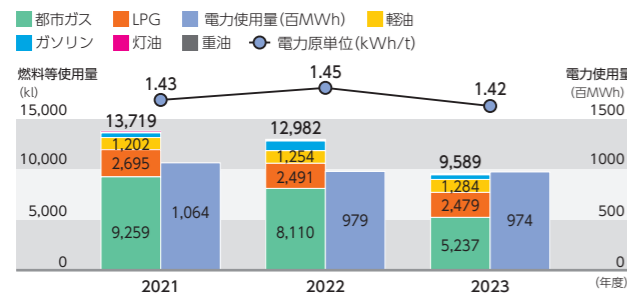


CO₂排出量(Scope3)

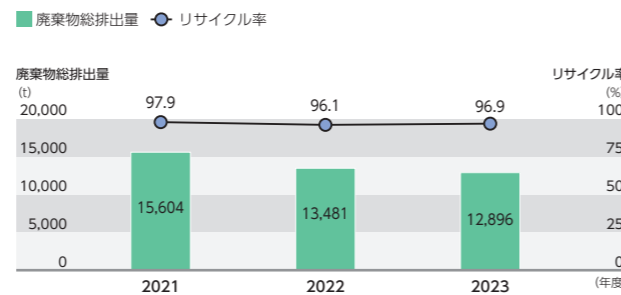


※断熱サッシ販売による削減量:単板硝子に対して当該商品を使用した場合の効果(NEDO「断熱部材のLCCO₂評価・算定法の標準化調査」成果報告書依据)
 ※太陽光発電による削減量:電力の調整後CO₂排出係数、太陽光発電システムのCO₂排出係数(47g/kWhと仮定)を用いて算出

燃料等使用量(原油換算)・電力使用量



産業廃棄物排出量・リサイクル率(生産拠点13サイト)



PRTR対象化学物質の届出(合計)

化学物質(t)	ニッケル 及びその化合物	ホウ素及びその化合物	マンガン 及びその化合物	フッ素 及びその水溶性塩	キシレン	メチレンビス (4,1-フェニレン)=ジイソシアネート
取引量	12.73	5.43	3.10	2.50	1.93	2.62
排出						
大気	-	-	-	0.05	1.74	-
水域	1.81	3.86	-	-	-	-

生産拠点マテリアルフロー

IN PUT	エネルギー							水資源		原材料
	電力(GWh)	都市ガス(km ³)	LPG(t)	軽油(kL)	ガソリン(kL)	灯油(kL)	重油(kL)	上水・工水(kt)	地下水(kt)	アルミ投入量(kt)
	95.4	4,449	1,878	103	131	76.5	49.3	2,114	130.1	36,061
OUT PUT	大気への放出		水域への放出		廃棄物		製品			
	CO ₂ (t)	水(kt)	産業廃棄物(t)	一般廃棄物(t)	アルミ生産量(kt)					
	64,326	2,244	12,896	181	37,920					

* アルミ投入量(製造)では外部購入ピレットを除外、アルミ生産量(押出)では含む
 生産拠点:不二サッシ(千葉)、不二ライトメタル、関西不二サッシ、日海不二サッシ、北誠産業、アジアニッカイ、しらかね不二サッシ、北海道不二サッシ、山口不二サッシ、不二サッシ九州、大牟田アルミ建材、沖縄不二サッシ、不二サッシフィリピン社

脱炭素社会の実現への取り組み

「不二サッシグループ サステナビリティビジョン 2050」で表明した通り、2050年カーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指してCO₂排出量削減に取り組んでいます (▶ P.21)。

不二サッシグループの自社活動由来(Scope1+2)およびサプライチェーン排出量(Scope3)の削減目標について、2024年6月にSBT短期目標およびネットゼロ目標の認定を取得しました。目標の内容はP19に掲載しています。

削減施策として、Scope1・2に関しては、工程改善・車両や設備等の更新による省エネと、燃料転換および再生可能エネルギーの導入拡大を推進します。Scope3に関しては、アルミリサイクル率のさらなる向上、取引先との排出量削減に向けたエンゲージメントや、輸送の効率化およびモーダルシフト等に取り組んでいきます。

また、これまで建屋屋上を利用した太陽光発電(売電)を実施してきましたが、新たに不二サッシフィリピン社と不二ライトメタルでも自家消費型の太陽光発電を開始しました。

環境負荷低減に向けた取り組み状況

地金比率低減 30%以下の実現

不二ライトメタル東資材生産部鋳造ラインでは押出に必要なピレットを生産しています。その原材料は大別するとアルミ新地金とアルミスクラップに分けられ、千葉事業所で発生するスクラップについてはすべてリサイクルしています。

アルミニウムは、軽量で耐久性・加工性に優れた素材であるため、様々な分野での需要が増加しています。そのアルミニウムの新地金を製造する工程では、大量の電力を消費するため、アルミ製品の原材料調達における環境負荷の低減を推進していくことが非常に重要となります。

アルミ製品は、使用後に回収されたアルミリサイクル材を製錬することなく溶解して他のアルミ製品として利用することができるため、アルミリサイクル材の活用推進が図られています。

2023年度、東資材生産部鋳造ラインでは、アルミリサイクル率70%ほどで生産しています。課題として、アルミメッキスクラップ30%以上を達成することにはありますが、2023年1月度にて排ガス処理設備の変更(煙突延長)を実施して、さらなるアルミメッキスクラップ比率増に対応が可能となる設備環境を整えることができました。従来の新地金にプラスして適正なスクラップ配合率で生産したピレットの最終製品に求められる品質、各工程の生産性を維持しながらアルミリサイクル率の向上を図ることを目指していきます。

また、アルミリサイクル率増加により不純物増加や微量

元素成分値上昇等、従来にはないデメリットも生じますが、生産活動の改善を進めながら独自のリサイクル技術を確認し、さらなるアルミリサイクル率向上の実現に向けて、メンバー丸となり、省エネルギー、省資源の環境配慮に対して改革意識を高めて取り組んでいきます。

こうした取り組みは実際にお客様からも高い評価を受けています。2024年度には、戸田建設(株)による「第3回利友会 環境アクション表彰」において、当社が応募した「鋳造アルミリサイクル率の継続的向上」が準大賞を受賞しました。その内容は、アルミリサイクル材の活用によるCO₂削減効果(新地金比約97%減)と上記のアルミリサイクル率70%をアピールしたものです。当社以外の受賞にもCO₂削減効果を掲げた発表が複数見られたこともあわせて、改めて市場のCO₂削減への関心の高まりを実感する機会となりました。

オンサイトPPAを活用した太陽光発電の導入

不二ライトメタル技術部では、本社工場にオンサイトPPA(Power Purchase Agreement:電力購入契約)を活用した太陽光発電を導入しました。オンサイトPPAとは、PPA事業者が需要家である企業の敷地内に太陽光発電設備を設置し、発電した電力を需要家がPPA事業者から直接購入する契約形態のことを指します。PPA事業者が太陽光発電設備を設置し、メンテナンスも実施することから、需要家は初期費用、運営費、メンテナンス費が不要という大きなメリットがあります。また、再生可能エネルギーである太陽光発電を導入することで、「2050年カーボンニュートラル」宣言の達成に向けた温室効果ガスの削減にもつながります。その他にも、化石燃料由来の電気料金に含まれる燃料調整費や再エネ賦課金の変動要因を回避できることや、屋根の遮熱性の向上による空調負荷の低減も期待できます。



排ガス処理設備 煙突延長工事実施



アルミ合金ピレット 完成品

このたび、敷地内の3つの建屋の屋根に合計2,384枚の太陽光パネルを設置し、2024年3月より自家消費電力として活用しています。発電能力は1,100kW、想定自家消費電力量は180万kWh/年(本社消費電力の約4%分)となり、855t-CO₂/年(本社CO₂排出量の約2%削減)のCO₂排出量の削減に貢献できます。

今後は、化石燃料の使用量を削減する省エネルギー活動を実施しながら、再生可能エネルギー由来の電気設備の導入も検討し、脱炭素社会の実現に向けた活動に努めていきます。



太陽光発電キュービクル

不二ライトメタル本社

二国間クレジット制度を用いた太陽光発電の導入

不二サッシフィリピン社では、再生可能エネルギーの活用によるCO₂排出量削減を目的として、環境省の「令和4年度二国間クレジット制度(Joint Crediting Mechanism: JCM) 資金支援事業のうち設備補助事業*1]」を用いて建屋屋上設置型の太陽光発電システムを導入し、自家消費電力として2024年3月21日から発電を開始しています。当プロジェクトでは、リース料に補助するJCMエコリース事業を活用しました(代表事業者:東京センチュリー(株))。

同社初の導入となる本太陽光発電システムの発電容量は154kW、想定自家消費電力量は19万kWh/年となり、計算上95t-CO₂/年のGHG排出量の削減に貢献できます。また、不二サッシフィリピン社で消費する電力のおよそ3分の2を再生可能エネルギー由来に置き換えられる計算です。



*1: 優れた脱炭素技術等を活用し、途上国等における温室効果ガス排出量を削減する事業を実施し、測定・報告・検証(MRV)を行う事業。本事業はフィリピン政府と日本政府の協力のもとで実施されている。

SDGsに関する取り組みについて

不二倉業ではCO₂排出量削減への取り組みとして自社保有のトラック、フォークリフトの燃費管理、エコドライブを推進してきました。2023年度は新たな取り組みとして車体の軽量化による積載量UP、アイドリングストップ時にもエアコンが使用可能となるよう、専用のバッテリーを搭載したSDGs車両を導入しました。燃料消費量およびCO₂排出量のさらなる削減や乗務員の熱中症対策にも有効な車両となっています。

同時に鉄道、船舶を利用したモーダルシフトを推進し、CO₂の排出削減へつなげていきます。



SDGs車

専用エアコン

照明のLED化による節電

不二サッシグループでは、電力使用量削減策の一環として、継続的に工場および事務所の照明省エネ化を推進しています。

日海不二サッシでは昨年度の第2工場に引き続き、第1工場および第3工場のLED化を実施しました。また、不二サッシ九州では本社事務所の専有部と共有部を、北海道不二サッシでは工場および事務所・食堂の照明をそれぞれLED化しました。

LED化したことにより省エネはもちろん、作業環境が改善されたことで作業員に喜ばれた拠点もありました。これからも段階的に切り替えを行い、さらなる節電・省エネにつなげていきます。

VOICE

第1工場、第3工場のLED化

日海不二サッシ 総務部 中野 裕夫

第1工場はメタルハライド灯からの交換のため効果はそれほどではありませんでしたが、第3工場は水銀灯から交換したため大きな効果を得ることができました。また、照度がアップしたことにより作業環境が良化しただけではなく、すぐに点灯する利点を活かしてあまり利用しない場所は常時消灯し必要時に点灯させることによりさらなる節電に努めています。今後は事務所のLED化を推進していきます。



エネルギー転換によるCO₂排出量削減

不二サッシリニューラル プロダクツセンターは2023年7月に川崎市から秦野市へ移転しました。

移転に伴い、生産システムや環境整備の見直しを図りました。その一つがエネルギー転換です。旧工場ではボイラーやストーブ等を稼働するため灯油やLPG・都市ガスを使用していましたが、新工場ではすべて電気に切り替わりました。冷暖房設備も完備されたことにより、作業環境も良化しています。

今後もエアコンの温度調節やシャッターの開閉などこまめな管理を徹底し作業環境向上とCO₂削減を意識して活動に取り組みます。

デマンドレスポンス(DR)対応による電力安定供給への社会貢献と電力コスト削減

不二ライトメタル技術部では、2021年度からインセンティブ型デマンドレスポンス(DR)の取り組みを開始しました。DRとは、電気を使用する側(需要家側)が電気の需要を制御し、電力の需要と供給のバランスを調整する仕組みです。企業が電力の需要を制御することで、電力会社が余分な発電をしなため、発電によるCO₂排出を抑えることができます。

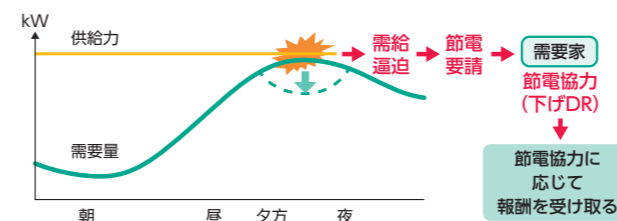
企業としてDR対応をするメリットは4つあります。

- 1【電気代を抑えられる】
省エネ意識の向上、節電対策が企業に根付き、コスト削減を図れる。
- 2【節電量に応じた報酬】
節電量に応じてインセンティブ(報酬)を受け取れる。
- 3【地球温暖化防止に貢献】
節電によるCO₂排出量の削減により、地球温暖化防止に貢献できる。
- 4【企業の信頼性向上】
DR対応は、地域の電力安定供給への貢献であり、企業の評価につながる。

不二ライトメタルでは、インセンティブ型DRに対応するために技術部が司令部となり、工場部門と連携を図りながら、節電量をいち早く把握する仕組みを構築しました。工場の節電設備の選定・停止要請を行いDRを実施したことで、2023年度に7回(2022年度は6回)のDR発動に対応でき、逼迫した電力市場の節電要請に貢献できました。

2024年度も引き続きDR対応をすることが決定しています。工場部門と連携し、電力市場の安定供給への貢献と電力削減に努めていきます。

インセンティブ型デマンドレスポンス(下げDR)



エコ混練機の販売

ごみ処理施設は社会にとって必要不可欠な設備ですが、稼働には多くのCO₂が発生いたします。不二サッシ環境事業部が全国のごみ処理施設に納入している飛灰処理シ

ステムの中の混練機という製品は有害物質を含んだ飛灰と薬品・水を混練し、有害物質を抑制する役割を担っており、40年以上の納入実績があります。近年の環境問題を意識し、CO₂削減を目標に混練機の改良に取り組み、混練性能は損なわずにサイズをコンパクトにすることで動力を削減(最大45kW→22.5kW)したエコ型混練機の開発を行いました。設置スペースや電力を抑えることにより、新規建設の施設だけではなく、既存施設の機器入れ替えにも利用しやすく、これまでに約100台を販売しています。ごみ処理施設に納入した機器は20年以上にわたり稼働するため、些細な削減でも長期的に考えると大きな成果になります。我々はこの混練機の改良と同様に、今後もCO₂削減を意識した様々な設計を心掛けていきます。



エコ混練機

梱包の改善による廃棄物の削減

不二サッシグループ全体で、廃棄物削減の一環として梱包の改善に取り組んでいます。

まず当社グループ内において、山口不二サッシでは、不二ライトメタル向けに出荷する際の梱包仕様を見直しました。具体的には、従来は枠・障子を段ボールで梱包していましたが、ストレッチフィルムでの梱包に切り替え、さらに1段6~7列×6~8段積みストレッチフィルムで固定する方式に変更しました。段と段の間には傷つき防止のため段ボールパッドを敷いています。この梱包仕様に替えたことで、段ボール廃棄物を削減できただけでなく、発送側では段ボール梱包の作業が軽減され、受け入れ側でも開梱作業が軽減されたことにより作業効率も上がりました。

山口不二サッシでは他にも、出荷時の段ボールにラベルを貼って注意事項を表示していたところを、段ボールに直接注意事項を印字する方式に変更したことにより、ラベル廃棄物の削減に加え作業性の向上にもつながりました。

他社との協業においても、段ボールや養生テープなどの梱包材の仕分けを改善し、取引業者による再利用を促進しています。加えて、不二サッシ九州では出荷時の梱包材(段ボール)を客先への納品時に回収し再利用するなど、自社・他社双方で廃棄物の削減につなげています。



山口不二サッシ 改善前

改善後



ステークホルダーとのコミュニケーション

定時株主総会

2024年6月27日、川崎日航ホテルで不二サッシ(株)第43期定時株主総会を実施しました。

当日は、29名の株主様にご来場いただき、3名の株主様からのご質問に対して各担当役員から回答させていただいた後、次の各議案の採決に移り、各議案とも賛成多数で承認可決しました。

●本総会の決議事項

1. 剰余金の配当の件: 当社普通株式1株につき2円
2. 株式併合の件: 普通株式10株を1株に
3. 定款一部変更の件: 発行可能株式総数を1,570万株に
4. 取締役2名選任の件: 土井和之氏、濱崎利香氏



不二サッシ工事共済会安全大会

2023年に57回目を迎える不二サッシ工事共済会の安全大会を、大阪支部(6月9日)を皮切りに最終の北陸支部(6月30日)まで全国11カ所で開催しました。

2022年度は、休業災害2件、不休災害5件、熱中症1件、火災1件の発生があり、災害の多い年となりました。2023年度も5月までに、3件の不休災害が発生しており、特に運搬災害が多く発生しました。2023年度のスローガン「高める意識と安全行動 築こうみんなのゼロ災職場」を目標に、これ以上災害が発生しないよう、会員一人ひとりが安全に対する意識を高め、作業手順書および現地KYボードを活用して安全作業をすることを誓いました。



令和5年度「優秀施工者国土交通大臣顕彰」

令和5年度「建設マスター」顕彰式典が2023年11月21日(火)に開催されました。本年度は不二サッシ工事共済会リニューアル支部、(株)高橋サッシ工業の高橋美奈氏が受賞されました。今年度の女性被顕彰者(建設マスター)は7名、そのうち建具工は1名でした。

建設マスターの顕彰は平成4年度より実施していますが、第32回目となる本年度は459名を顕彰し、建設マスターは計12,412名となります。



不二サッシ建材特約店会の全国総会開催

「2023年度不二サッシ建材特約店会全国総会」を建材特約店と販売会社、関係会社を含め総勢101名で開催しました。

総会は江崎社長の挨拶で始まり、新装サッシ工業(株)嵯峨社長に特約店代表としてご挨拶いただきました。続いて中低層・フロント事業部の方針と今年度の重点施策の説明、光建材事業部の実施工事の紹介を行いました。

また、「2022年度建材作品コンテスト」の表彰式も行われ、最優秀賞の(株)松本アルミをはじめ、入賞した15作品に対して江崎社長が表彰状と賞金を授与しました。

2023年日本産業広告賞 入賞

日刊工業新聞社が主催する「2023年日本産業広告賞」において、不二サッシの広告が「新聞部門 シリーズ広告賞 第2席」を受賞しました。今回入賞したシリーズでは、ダーウィンの進化論にインスパイアを受け、不二サッシも地球環境から学びながら、「選ばれる企業グループ」を目指していることをアピールしました。



第三者意見

戸村 智恵 様

日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長



元・国連の専門官で、国連戦略立案専門官リーダー、内部監査担当官、サステナビリティ・ESG関連の普及啓発等を担当。国連退官後、岡山大学大学院非常勤講師、経営行動科学学会理事、上場IT企業アドバイザー、コーポレート・ガバナンス・アワード大賞選考委員長等を歴任。

元・国連の専門官としてサステナビリティやESG関連の普及啓発にあたり、上場各社の取締役・監査役などを指導する立場にあり、官公庁関連の有識者・監査専門委員などを担当してきた当職が、不二サッシ株式会社のサステナビリティに関して独立的・客観的な観点から第三者意見をご提供致します。

なお、当該意見は、同社からの提出データおよび書面などで把握し得る範囲で取りまとめており、隠れた問題や今後の問題などが無いことなどを保証するものではありません。

トップメッセージの一貫性と整合性

経営者から垣間見える言動は、美辞麗句よりも如実に、経営姿勢や役職員の意識を反映し得るものであり、継続的に第三者意見を提供する中で、年々進化する取り組みが、一貫して整合性がとれているものと見受けられました。

特に、財務数値や環境関連の指標などにだけ目を奪われ、つい見過ごされがちな何気ない一言ながら、「過去への反省を未来に活かす」旨の経営者の想いが、同社のサステナビリティの取り組みを、健全に支えているものと思われまます。

健全な進化や国連が重視する漸進的な取り組みとは、単に、新しいことや華やかそうなことを列挙するのではなく、過去の取り組みの善し悪しを検証し、より良き歩みを着実に進めていくことが重要となります。

過去への反省を未来に活かす点では、社会的問題となっている受刑者の社会復帰の支援や、過去の報告書でも同様に、あるがままに隠すことなく開示してきた点も含め、愚直に改めて着実に進化を遂げている様子がうかがえます。

TCFD・SBT認定・サステナビリティマネジメント等での進化

従前の取り組みを深め、Scope1~3に至る温室効果ガスの排出量の削減対策や、責任あるメンバーでの意思決定プロセスの中にTCFDへの取り組みを積極的に織り込み、気候変動リスクへの対応に実効性を持たせる強い意志が感じ取れます。

また、2024年6月のSBT認定取得をはじめ、GX(グリーン・トランスフォーメーション)リーグへの参画や、環境負荷低減だけでなく社会的課題への取り組みも含めた、全社的なサステナビリティマネジメントを進化させている様子もうかがえます。

さらに、総花的な対応に終わらぬよう、重点的な課題に重点的に取り組む姿勢で、脱炭素・人的資本・人権などでの具体的な対応がなされている点も、「サステナビリティビジョン

2050]を真摯に推進する姿勢が感じられます。

重点的な対応を主軸としつつ、ESGで社会的な要請を基にした諸施策もめかりなく、労働人口減少を迎えるこれからの時代に、特に求められる若手人材の育成とガバナンス強化の観点バランスよく併せ持ち、長期的視野を欠かさぬ経営姿勢も、持続的で健全な発展を遂げる強固な礎となるものと思われまます。

今後より一層の進化が期待される点

既に多様な取り組みが進められている一方で、順次、より一層の取り組みと開示や対話などが期待される点も見受けられました。

既存のホットラインや苦情処理対応システムに組み込む形で、別の窓口を設置する形で、広範に人権救済の対応を進める「グリーンバンスメカニズム」や、サプライチェーン全体での人権デューデリジェンスにおいて、取り組みが深められ開示や対話がより一層進むことが望まれます。

人的資本の育成においても、多様化(および多能工化)の推進においても、障がいのある方々の就業機会の確保やノーマライゼーションなどにおいても、従前の取り組みから進化を遂げている様子が見受けられ、今後の一層の飛躍とその成果の開示や対話などが期待されます。

過去の反省に加え、過去の良き取り組みや良い結果をもたらした要因など(ベストプラクティス)も分析しながら、良き活動を進化させ、活かすべき教訓や改善点を今後の推進力に変えて、持続的で健全な発展がもたらされるものと思われまます。

冒頭の格言を述べたジョン・ラボック氏には、「私たちに何が見えるかは、私たちが何を求めているかによる」との格言もあり、窓から広げる夢や未来が、ムリなく・ムダなく・長続きする・理にかなった・お互いに幸せになりあう取り組みに満ちた姿となることを期待します。

第三者意見を受けて

不二サッシ株式会社 執行役員 サステナビリティ推進室長 吉原 和仁

戸村様には例年通り、当社サステナビリティレポート2024発行にあたりSDGs・ESG関連の専門的立場から貴重なご意見、ご評価をいただき御礼申し上げます。

現在、中期経営計画(2022-2024年度)ではメインメッセージを「サステナブルな社会実現への貢献『選ばれる企業グループへ』」とし、サステナビリティを経営戦略の重要テーマと捉え、社会課題の解決と経営戦略の共通価値の創造を目指しています。2023年度は、サステナビリティ委員会設置、同推進室設置、サステナビリティビジョン 2050

策定、TCFD開示実施、SBT認定取得、GXリーグへの参画等に取り組む一方、環境配慮型商品であるアルビームプラス フォルティナ®、インプラードⅡ等の社会課題の解決に資する商品開発にも相応の成果があったものと考えています。

今後より一層の進化が期待される人権及び人的資本の面については、その重要度は十分に認識しており、取り組みを開始しているものの、より充実させていく所存です。

戸村様には引き続きご指導たまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。



不二サッシ

<https://www.fujisash.co.jp/>

不二サッシ株式会社

本 社 〒 212-0058
神奈川県川崎市幸区鹿島田 1丁目 1番 2号
TEL 044-520-0034

東京本部 〒 141-0031
東京都品川区西五反田 4丁目 32番 1号
TEL 03-6867-0770

内容に関するお問い合わせ先

サステナビリティ推進室

TEL:03-6867-0755 E-mail:sustainability@fujisash.net

UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。